

取 扱 説 明 書

丸山ステレオスプレーヤ

SSA— α 605V

SSA— α 1005VT

ご使用になる前に必ずお読みください。

はじめに

このたびは、丸山製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。この取扱説明書は、安全で快適な作業を行っていただくために、製品の正しい取り扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用前によくお読みいただき十分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るようにこの冊子をご活用ください。

又、お読みになったあと必ず大切に保管し、分からないことがあったときには取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などによりお買い上げの製品と本書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

又、安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい安全のポイントを抜粋した「安全作業説明書」を別冊にして同梱しておりますので、併せてご活用ください。

本製品に関してお気付きの点がございましたら、最寄りの取扱店、又は当社の営業所にお問い合わせください。

■ 適用範囲について

●本製品は、果樹園における防除作業を目的とした製品です。

この使用目的範囲を逸脱しての使用が原因での事故、許可なく改造及び分解を行い、それに伴って生じた事故に関しては、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ 注意事項について

●本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ 危険・・・もし警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う事になるもの。

⚠ 警告・・・その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性があるもの。

⚠ 注意・・・その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。

注意・・・その警告に従わなかった場合、製品の損傷の可能性があるもの。

■ 国際単位について

●本取扱説明書には、国際単位を表示しています。下記の換算数値を良く読んでご理解の上ご活用ください。

換 算 表

量	新計量法対応表示	換 算	従来の表示	備考
面 積	[m ²] (平方メートル)	10000[m ²]=1[ha]=100[a] =10 反歩=3000 坪	[a] (アール)、[ha] (ヘクタール) 坪、町歩、反歩	※①
回 転 速 度	[rpm] (回毎分) [min ⁻¹] (毎分)	1 [min ⁻¹]=1 [rpm]	[rpm]	※②
力	[N] (ニュートン)	9.8 [N]=1 [kgf]	[kgf] (重量キログラム)	
力のモーメント	[N・m] (ニュートンメートル)	9.8 [N・m]=1 [kgf・m]	[kgf・m]	
圧 力	[Pa] (パスカル) [N/m ²] (ニュートン毎平方メートル)	0.98 [MPa]=1.0 [kgf/cm ²] 9.8 [Pa]=1 [mmH ₂ O]	[kgf/cm ²] [mmH ₂ O]	
工 率・動 力	[W] (ワット)	735.5 [W]=1 [PS] 9.8 [W]=1 [kgf・m/s]	[PS] [kgf・m/s]	

※注意事項

① 土地面積については、[a]、[ha]を使用することがあります。

② 単位時間における回転数については、「回転数」ではなく、「回転速度」と表示します。

目 次

1	▲安全に作業するために	3
2	各部のなまえ	7
3	主要諸元	9
4	▲警告ラベルの取り扱い	11
5	メータ・警告灯・ランプの見方	14
6	スイッチの使い方	16
7	レバーの使い方	18
8	ペダルの使い方	19
9	散布装置の使い方	20
10	その他の装置の使い方	21
11	燃料の補給について	23
12	始業点検	23
13	エンジンのかけ方・止め方	24
14	走行・停車・駐車のしかた	25
15	▲トラックへの積み・降ろしのしかた	31
16	給水	32
17	噴霧点検	33
18	散布量と散布速度	34
19	散布作業の注意事項	39
20	薬剤調合	40
21	散布方法	40
22	散布作業後	41
23	保守点検（点検整備方式）	43
24	点検整備要領	50
25	給油一覧表	58
26	配管系統図	59
27	長期保管の方法	60
28	故障の原因と処置方法	63

1 ▲安全に作業するために

●安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りです。

これ以外にも、**▲危険**、**▲警告**、**▲注意**、**注意**として、その都度取り上げています。

(1) はじめに

この取扱説明書、安全作業説明書及び農薬の取扱説明書を良く読んで、正しい安全作業を行ってください。

ほ場の整備は安全作業の基本。散布作業を行う前は、路肩の状態、雑草の生え方を見て、いつも危険を最小限にしてください。

- ①製品の改造は危険ですので行わないでください。
故障や思わぬ事故の原因になります。
- ②本機は、ほ場進入時とトラック搭載時は傾斜角 15° 以内の領域で使用してください。それ以外のときは傾斜角 10° 以内の領域で使用してください。
- ③作業を行う場合は、それぞれの作業に適応した保

護具(保護マスク、手袋、ヘルメット、防水性のある防護衣)を必ず使用し、適正な服装で行ってください。

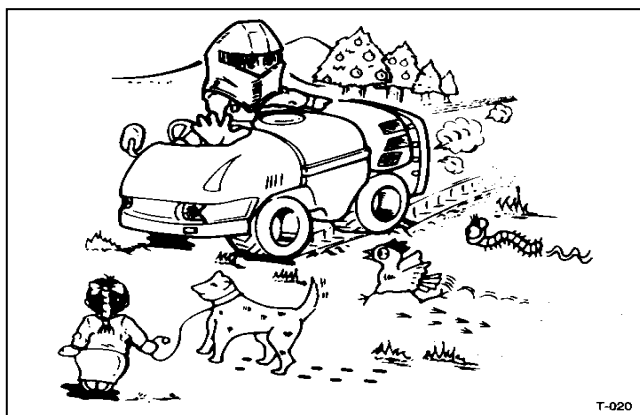
- ④製品の点検整備及び修理は、平坦な場所でエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、キーを抜いてから行ってください。機体が動き出し事故を起こす原因となります。

- ⑤子供や家畜等を防除作業の現場に近づけないでください。事故を起こす原因となることがあります。

- ⑥水道、河川、池、沼等を汚染しないよう、十分注意してください。法律により罰せられます。

- ⑦火気の近くでの給油は絶対に行わないでください。
火災の原因になります。

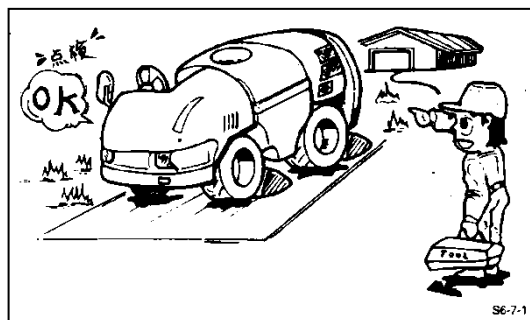
タバコを吸いながらの給油は厳禁です。



(2) 運転前のご注意

- ①取扱説明書を良く読んで本機の操作になれてください。
- ②平坦な場所で駐車ブレーキを掛け、防除作業中のトラブル防止のため、必ず始業点検を行ってください。始業点検/P.23
- ③燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
火災の原因になります。

- ④配線及びマフラやエンジン周辺部に、ゴミや燃料の付着、泥の堆積等があると火災の原因となりますので、毎日の作業前に点検し、きれいに取り除いてください。



(3) エンジンの始動

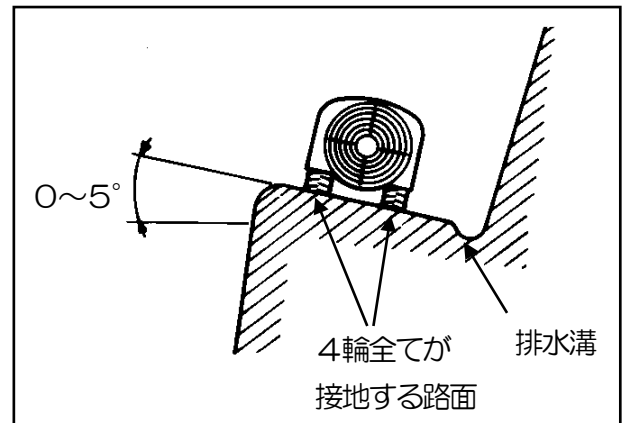
- ①室内では排気ガスが空気を汚してガス中毒を起こす危険があります。窓や戸を開けて換気を十分にしてください。
- ②まわりをよく見渡して「これから動きますよ」と合図を送ってから、エンジンを始動させてください。
- ③エンジンを始動させるときは、マフラー及び排気口付近に障害物や燃えやすいものがあると発火するおそれがあります。駐車の際には十分注意してください。

(4) 走行路の整備

- ①本機をほ場に入れる前に、走行路の整備をしてください。ほ場内はもちろん、ほ場への出入口、ほ場までの道のりも整備します。整備が不十分の場合、転落事故の原因となることがあります。
- ②走行路は効率の良い防除効果が得られるよう、樹形、地形等の状況を考慮して決定します。
- ③走行路の道幅は、ほ場までの移動路も含め2m以上とってください。また、旋回部は2.5m以上としてください。傾斜地では上記より0.5m道幅を広くしてください。
- ④傾斜地での走行路の作り方

傾斜地での走行路は旋回部も含め、 10° 以内にしてください。横向きは傾斜は $0\sim5^{\circ}$ とし、4輪全てが接地する路面にしてください。また、谷側に傾斜をつけた走行路を走ってはいけません。

- 路肩は崩れないように石積やコンクリート等で補強してください。
- 路肩の草は刈り取って路肩が見えるようにしてください。
- 路面にはワラ等は敷かないようにしてください。走行中にスリップしたり、送風機を動かした際に風の巻き上げで送風機に貼り付くことで、散布作業や走行の妨げになります。



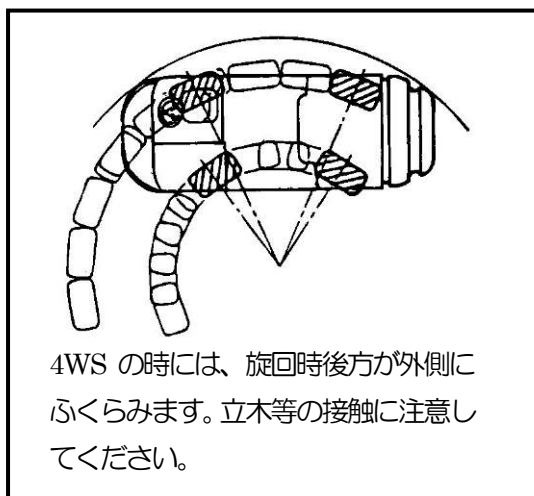
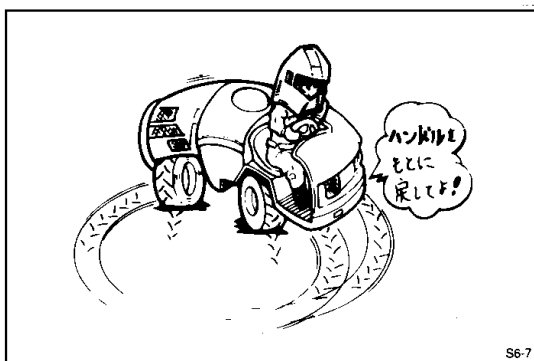
(5) 樹形について

- ①試走前に走行に支障のある枝は切るか、支柱を立て支障のないようにしてください。
- ②低速で試走しながら、枝や路面状況に気を配り、支障のある時は機体を止め、すぐ必要な処置を取ってください。

(6) 走行運転

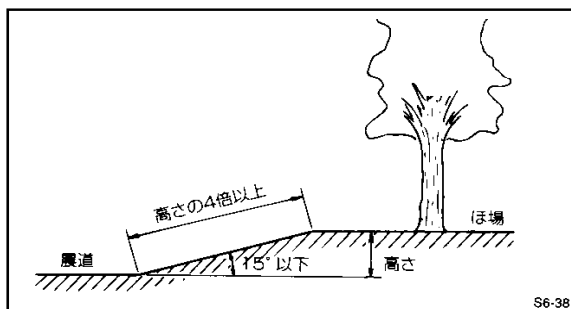
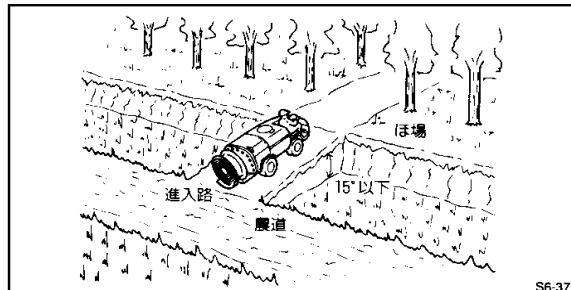
- ①乗車定員は1名です。2名以上の乗車は禁止です。
- ②本機は2WS-4WS システム(2WS-4WS 切換付)のため非常に小さい回転半径で旋回できますが、4WSの時には前輪の進む方向と逆の方向に後輪が進みますので、ご注意ください。
- ③必要以上の高速運転、急発進、急加速、急制動、急旋回はしないでください。
- ④最大積載量(薬剤タンク満水と付属品搭載)以上は積まないでください。機体破損させることはもとより、事故を引き起こす原因となります。
- ⑤登降坂時には本機が転倒しないよう、特に注意してください。急坂路には等高線にそって道路を作り、地盤をかためてください。
- ⑥軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しないでください。

ほ場を事前に調査し、走行順路の障害物は撤去し、作業が十分安全に行えるように整備してください。同時に旋回部は本機の旋回に支障ない広さをとってください。



(7) ほ場の出入り

- ①低速で傾斜に進入してください。
- ②斜め進入は、転倒の危険があるため、絶対に行わないでください。
- ③ほ場への進入傾斜角度は 15° 以内とし、軟弱な場合は、小石やコンクリート等で地盤を固め、進入路を整備してください。

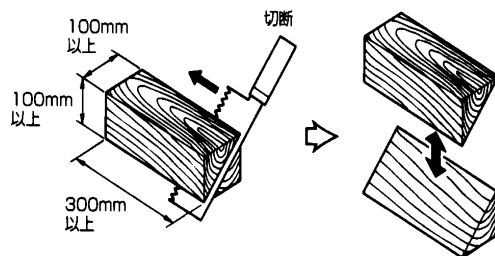
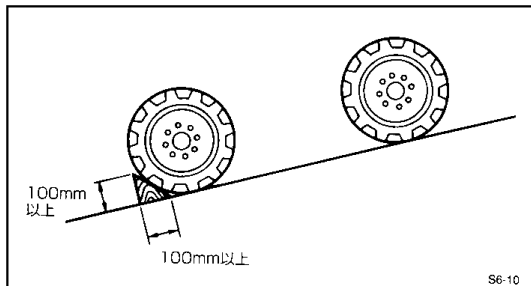


(8) トラックへの積み・降ろし(31ページ参照)

- ①トラックへの積み込みは、薬剤タンク空にて、前進で積み込んでください。降ろす時には、後進でゆっくり行ってください。
- ②道路交通法違反とならないよう、本機機体寸法、重量を確認し、積み込んでください。最大積載量2000kg以上のトラックを使用してください。
- ③アユミ板は、十分な強度と長さ、板幅(30cm以上)のあるすべり止め付きのものを使用し、ゆっくりと移動してください。
- ④アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、又、ずれのないように確実に掛けてください。
- ⑤万一、途中でエンストした時は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、道路まで降ろしてください。
- ⑥平坦地を選び、助手の立会誘導のもとに行ってください。助手は、本機進行方向の直前、直後には立たせないでください。

(9) タイヤ歯止めについて

- 安全に駐車させるために、下記形状のタイヤ歯止めを2ヶ用意してください。
- 100mm 角以上、長さ300mm以上の木片を用意し、対角に切断し作成します。
- 歯止めは、傾斜の下り側タイヤの下側、左右2輪に行います。



(10) 購入後は

本機は道路運送車両法の小型特殊自動車（車体の形状：農業用薬剤散布車）に該当します。

また、道路交通法では普通自動車に該当します。

本機を購入されましたら以下の事項をお守りください。

また、本機を安全にお使いいただくため、始業点検および定期点検を必ず行ってください。

[ナンバープレート取得について]

- 本機は、小型特殊自動車ですから、公道を走行するしないに関わらず、必ずナンバープレート（標識）の交付を受けなくてはなりません。保管場所の市町村役場で所定の手続きを行い、ナンバープレート（標識）の交付を受けてください。
- 手続きは、販売証明書（購入先にて発行）と小型特殊自動車届出書に軽自動車税を添えて市町村役場に届けます。市町村により手続きが多少異なりますので、詳細は購入先にご相談ください。

- ナンバープレート（標識）は、本機後部の防塵網の取付位置に取り付けてください。

- 本機は小型特殊自動車ですから保管場所の確保義務があります。保管場所を決め適切に保管してください。

[公道走行について]

- 本機は、小型特殊自動車として保安基準に適合していますから、公道を走行することができます。国土交通省に届出した部品以外のものを装着したり、部品を取り外したりすると、違法改造となることがあります。詳細は購入先にご確認ください。

- 公道を走行する際には、普通自動車の運転免許が必要です。必ず運転免許証を携帯してください。

- 公道は道路交通法を守って安全に走行してください。

[損害賠償保険について]

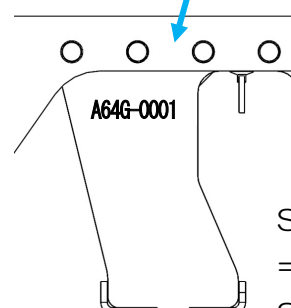
- 万一の事故に備え、任意保険などに加入することをおすすめします。

小型特殊自動車 車名及び型式

SSA- α 605 : 丸山 YDM-SA64G

SSA- α 1005 : 丸山 YDM-SA14G

車体番号打刻位置は、図の位置です。



SSA- α 605 の場合

⇒A64G-0001

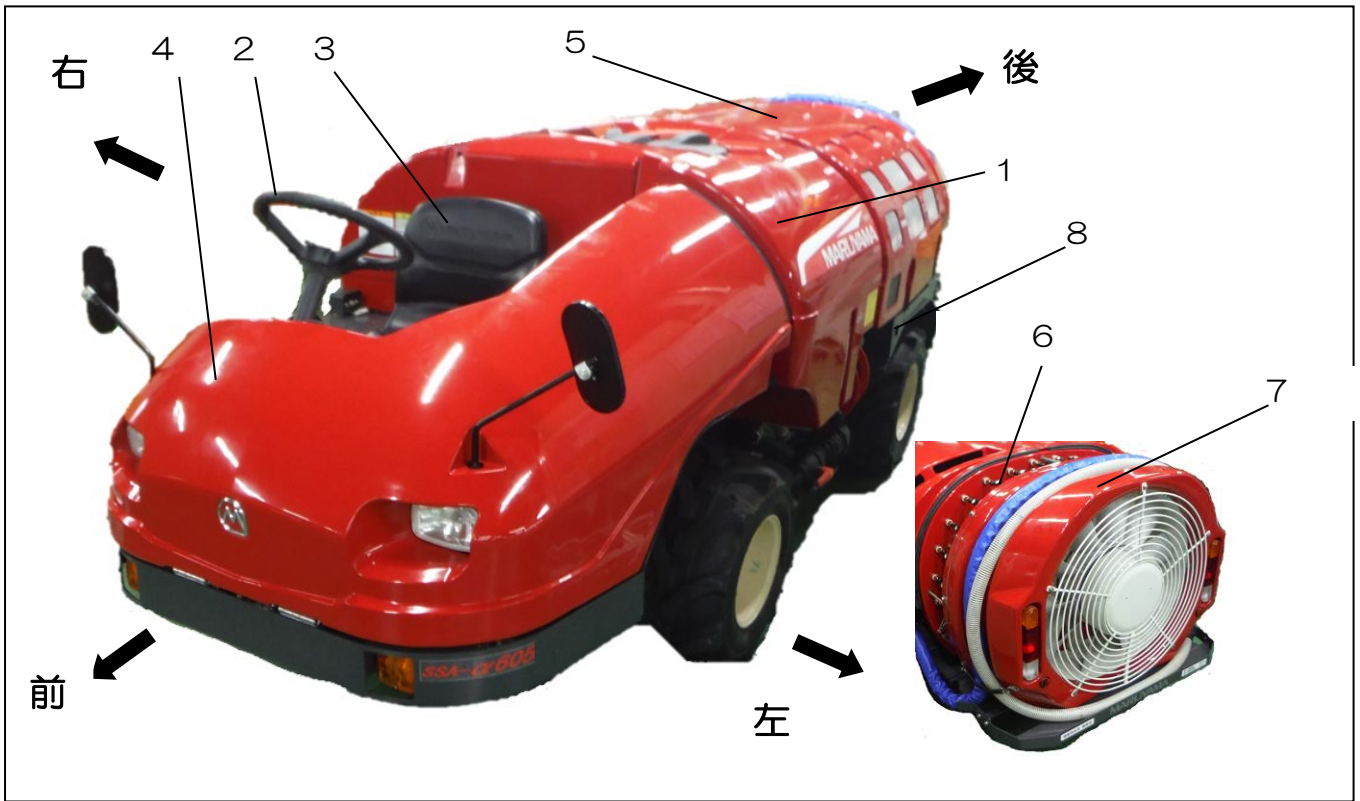
SSA- α 1005 の場合

⇒A14G-0001

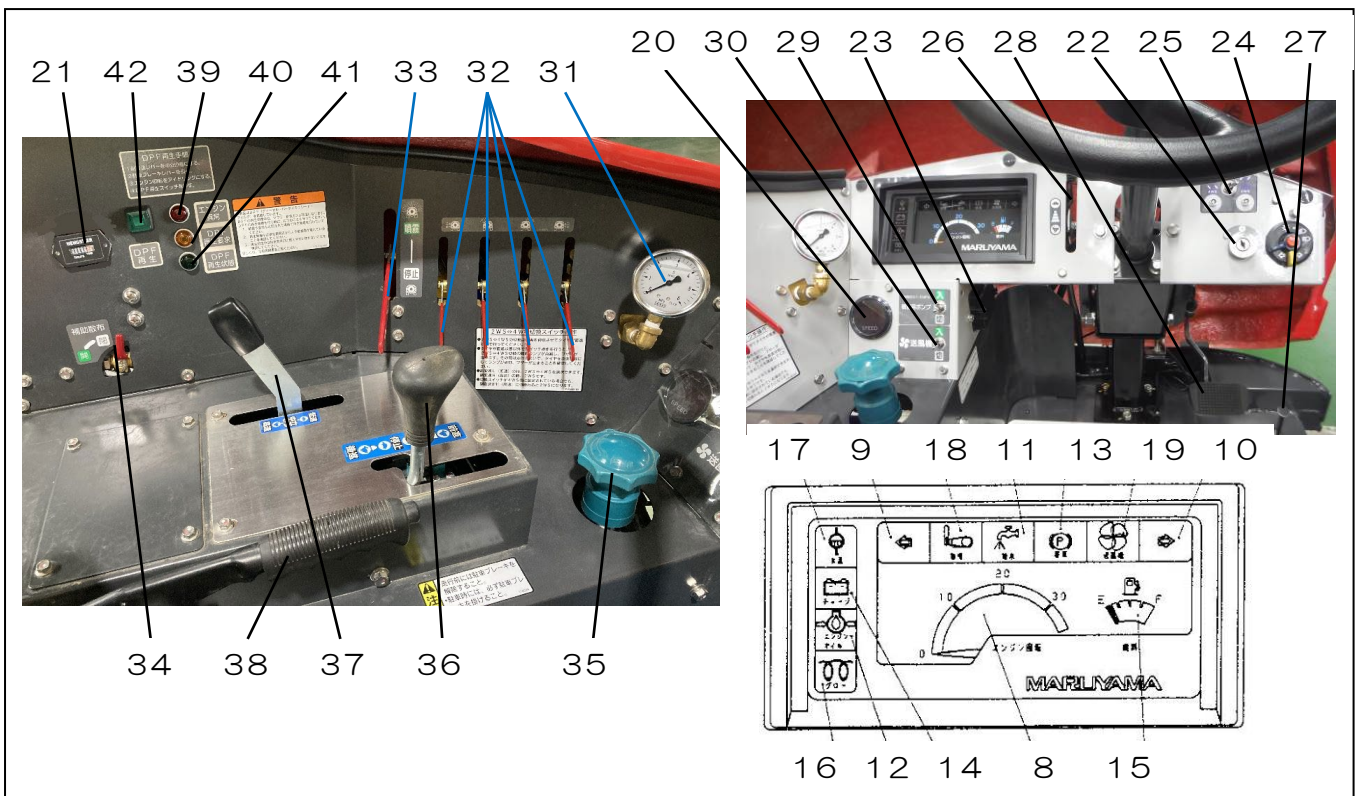
2

各部のなまえ

(1) 外 観



(2) 運転装置



(3) 各部のなまえ[7ページ参照]

名 称		本文参照 ページ
1	薬剤タンク	—
2	ハンドル	22
3	座席（シート）	22
4	フロントパネル	21
5	ボンネット	21
6	噴頭	—
7	送風機	—
8	給水ポンプスイッチ	17
9	タコメータ	14
10	ターニングナル表示灯	15
11	給水ポンプランプ	15
12	オイルプレッシャランプ	14
13	駐車ブレーキランプ	15
14	チャージランプ	14
15	フューエルメータ（燃料計）	14
16	グローランプ	15
17	水温警告灯	14
18	噴霧用ポンプランプ	15
19	送風機表示灯	15
20	スピードメータ	—
21	アワメータ	14
22	キースイッチ	16
23	ヒューズボックス	—
24	コンビネーションスイッチ	16
25	2WS-4WS 切換えスイッチ	16
26	スロットルレバー	18
27	アクセルペダル	19
28	ブレーキペダル	19
29	噴霧用ポンプスイッチ	17
30	送風機スイッチ	17
31	圧力計	20
32	噴霧コック	20
33	噴霧メインコック	20
34	補助散布巻取機コック	20
35	調圧弁	20

名 称		本文参照 ページ
36	主変速レバー	18
37	副変速レバー	18
38	駐車ブレーキレバー	18
39	エンジン異常警告ランプ	27
40	DPF 再生要求ランプ	27
41	DPF 再生状態ランプ	27
42	DPF 再生スイッチ	27

(4) 付属品

名 称	部品番号	個数
取扱説明書	888543	1
安全作業説明書	177230	1
配線図	889047	1
保証書	—	1
特別保証書 （動力噴霧機2年）	—	1
ボックススパナ （17・タイヤ着脱用）	068585	1
ボックススパナ （22・タイヤ着脱用） （SSA- α 1005VTのみ）	418032	1

(5) オプション（別売）

名 称	部品番号	
	α 605VT	α 1005VT
ビニールシートカバー	057722 サイズ：L	142008 サイズ：LL
防 除 ヘ ル メ ッ ト (MAP252P)	680131	
ノズル板 (穴径0.7~2.1、無穴)	—	
中子（広角拡散形）	141663	
制風板（棚用）	889891	688101
遮断板		
巻車（40m）	888920	888921
プロペラシャフトカバー		

3

主 要 諸 元

名 称		SSA- α 605V	SSA- α 1005VT
機 体 寸 法	全長 (mm)	3570	3940
	全幅 (mm)	1420	1430
	全高 (mm)	1220	1270
	最低地上高 (mm)	165	210
質量 (kg)		1360	1500
エ ン ジ ン	名称	クボタ D1803	クボタ D1803-T
	形式	水冷4サイクル 立形ディーゼルエンジン	水冷4サイクル 立形ディーゼルエンジン
	総排気量 (L)	1.826	1.826
	定格出力 (kW/rpm)	23.7/2400	31.4/2400
	燃料	超低硫黄ディーゼル軽油	超低硫黄ディーゼル軽油
走 行 部	形式	自走式4輪全輪駆動形	
	操行方法	丸ハンドル油圧式4輪操舵・2輪操舵切換式	
	変速段数	無段変速 (HST) 副変速2段	
	走行速度 (km/h)	高速 (H)	前進: 0~15 後進: 0~7.5
		低速 (L)	前進: 0~5.0 後進: 0~2.5
	機体最外側旋回半径 (m)	2.4	2.8
	登坂能力 (°)	15	
	主ブレーキ	湿式多板ディスク	
	駐車ブレーキ	湿式多板ディスク (主ブレーキ兼用)	
	走行クラッチ	油圧回路バイパス方式 (ブレーキペダル連動)	
	タイヤ	23×10.00-10 6PR (空気圧 280kPa)	26×10.00-12 6PR (空気圧 280kPa)
	バッテリー	105D26R (65D26R以上)	
	燃料タンク容量 (L)	28	40
薬液タンク容量 (L)		600	1000
かくはん方式		プロペラ (機械式)	
噴 霧 用 ポン プ	名称	MS1000F	MS1300F
	形式	並列型5連ピストン式	並列型5連ピストン式
	常用回転速度 (rpm)	1120	920
	常用吐出圧力 (MPa)	1.5	1.5
	吐出量 (L/min)	90	115
ポン プ 給 水	形式	回転形 MPR4010	
	吐出量 (L/min)	230	

送風機	形式	後置静翼軸流送風機	
	常用回転速度 (r pm)	2000	2145
	風量 (m ³ /min)	600	700
ノズル	種類	ディスクノズル	
	個数	28	
	ノズル噴霧量 (L / min)	80 (最大)	105 (最大)
	噴霧角度 (°)	260	

★改良のため予告なく仕様を変更することがあります。



警告

●本機は、ほ場進入時とトラック搭載時は傾斜角15° 以内の領域で使用してください。それ以外の場合は傾斜角 10° 以内の領域で使用してください。

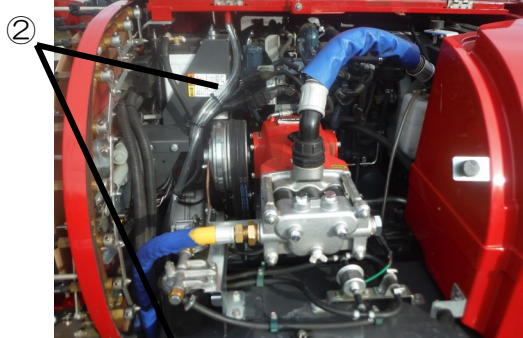
4

警告ラベルの取り扱い

※本機には次の警告ラベルが貼ってあります。よくお読みになって理解した上で作業してください。下記にその内容を記載してありますので、よく読んでください。

注意

- いつも汚れや泥をとり、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したなら、新しい物と交換してください。
- 警告ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しいラベルを取り外した部品と同じ場所に貼ってください。



③

SSA-α605V
の場合



③

SSA-α1005VT
の場合

①品番681936

警告		排気ガスは、人体に有害です。室内や換気の悪い所で運転しないこと。
注意		・ノズルから薬液が噴出します。エンジンが運転中は、噴頭部に近づかないこと。 ・回転物に巻き込まれるのでカバーを開けたままエンジンを始動しないこと。 ・点検、整備するときは、エンジンルーム内の部品が冷えてから行うこと。

P/N. 681936

②品番681940

警告		バッテリーが破裂（爆発）する恐れがあるので、バッテリー液量が不足した状態での使用・充電はしないこと。
注意		バッテリー充電、点検調整時には必ずバッテリーコードマイナス極側を外すこと。

P/N. 681940

③品番296260

注意	高温注意 	マフラやその付近に触れないこと。やけどをします。

P/N. 296260



④品番882402

⚠ 警 告

本製品はDPF（ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ）を搭載しています。DPFの再生処理中は、マフラ・排気ガスが高温になります。DPFの再生処理を行う時は、以下のことを守ってください。

1. 納屋や倉庫など囲まれた場所で再生処理を行わないでください。
2. 再生処理中は排気管周辺から人や動植物が離れていることを確認してください。
3. 再生処理中は排気管周辺に燃えやすい物がないことを確認してください。

詳しくは、取扱説明書をご覧ください。

P/N.882402

⑤品番178029

⚠ 注 意

●走行前には駐車ブレーキを解除すること。

●駐車時には、必ず駐車ブレーキを掛けること。

178029

⑥品番861808

⚠ 警 告

服装は、体にあったものを着用して下さい。保護衣・保護マスク・保護メガネ・ゴム手袋・作業靴（長靴）等を用意し、安全な服装で作業すること。

トラックへの積み・降ろし時は次のことを必ず守ること。

1. 平坦地で助手の立会誘導のもとで行うこと。
2. 本機の周囲に人を近づけないこと。
3. アユミ板は十分な強度と長さ、板厚のあるすべり止め付きを使用。
4. アユミ板の傾斜角度は、15度以下のこと。
5. 薬剤タンク空にて、低速で積み・降ろしを行うこと。
6. 積み込んだら、エンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、指定の場所にロープをかけ本機を固定する。

ほ場への出入りには、次のことを必ず守ること。

1. ほ場への出入りは低速で進入すること。
2. 斜め進入は、転倒の危険があるため絶対に行わないこと。
3. ほ場への進入傾斜角度は15度以内とし、軟弱な場合は、小石やコンクリート等で地盤を固め進入路を整備すること。

P/N. 861808

⑦品番888682

⚠ 注 意

- 安全に作業するために取扱説明書をよく読んで機械の使い方を覚えてから使用すること。
- 点検、調整、清掃時には必ずエンジンを停止し、キーを抜くこと。
- 最大積載量（薬剤タンク満水と付属品搭載）以上は積まないこと。
- 乗車定員は、1名です。2名以上は乗車しないこと。
- 高速走行時の急旋回は行わないこと。
- 走行路およびほ場への進入路の整備を行うこと。
- 作業時および傾斜地走行は、低速で行うこと。
- 降坂時は必ずエンジンブレーキを併用すること。
- 運転席から離れる時は、必ずエンジンを停止しキーを抜くこと。
- 駐車時は必ず駐車ブレーキとタイヤ歯止めを併用すること。
- 危険と感じた時は、作業を中止すること。

P/N. 888682



⑧品番682726

⚠ 警告	・飲料水源及び生物を飼育している湖沼からの直接給水は絶対行わないこと。 ・散布計画を立て、薬剤は余らないように作ること。
⚠ 注意	薬剤の取扱い注意 使用する薬剤の取扱説明書をよく読んで正しく使用すること。 P/N. 682726



⑨品番177415

⚠ 注 意	
火気厳禁 	軽油を使用のこと。 補給の際は必ずエンジンを停止すること。 177415



⑩品番178056

⚠ 注意
指を切傷するのでファン、ベルトに触れないこと T0180-49571



⑪品番178055

⚠ 注 意 危険、熱い時あけるな。
⚠ CAUTION DANGER, never open When hot

メータ

■タコメータ（エンジン回転速度）

エンジン回転速度を表示します。

作業時にはスロットルレバーで最高速にしてください。

■フューエルメータ（燃料計）

キースイッチを「入」にすると針が作動します。

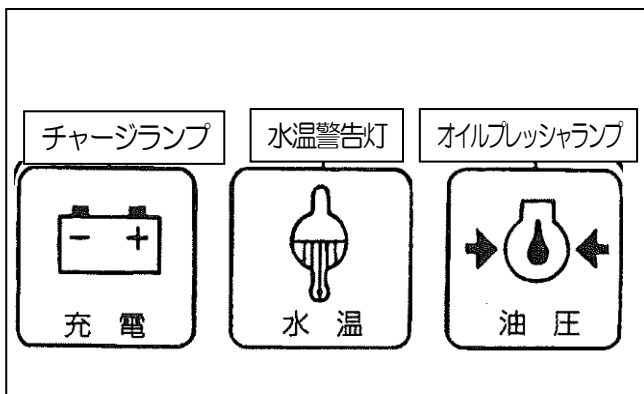
「E」に近づいたら早めに軽油を補給してください。

坂路ではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。

■アワメータ

キースイッチを「入」にすると作動します。アワメータの最後の桁は、1／100時間（36秒）毎に作動しています。

警告灯



■チャージランプ（充電警告灯）

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯し警告します。

注意 ●点灯した場合は、エンジンを止めファンベルトを点検してください。ベルトに異常がない場合は、最寄りの販売店で点検を受けてください。

■オイルプレッシャランプ（油圧警告灯）

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯し警告します。

注意 ●エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、最寄りの販売店へ連絡してください。

●点灯したまま走行するとエンジンが破損します。

●油圧警告灯はオイル量の不足を示すものではありません。オイル量の点検はオイルゲージで行ってください。（P.50参照）

■水温警告灯

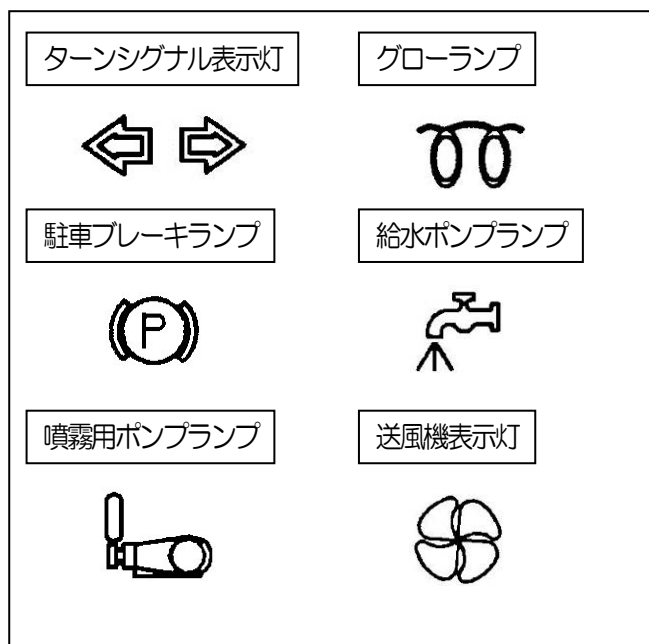
エンジンが過熱状態になると点灯し警告します。

！注意

●ラジエータキャップの取り外しは、停止直後やエンジン回転中は火傷をしますので絶対に行わないでください。水温が下がってから布切れなどをかぶせ、ゆっくりと行ってください。

注意 ●点灯した場合は、風通しの良い所へ本機を移動し、エンジンをアイドリング回転にします。水温警告灯が消えたらエンジンを止め、エンジンオイル、冷却水の不足、ファンベルトの張り、ラジエータのスクリーンの詰まり（P.51参照）、エアクリーナの詰まりなどを点検します。たびたび点灯する場合は最寄りの販売店で点検を受けてください。

モニタランプ（作動状態確認表示）



■ターンシグナル表示灯（方向指示器）

走行中、ターンシグナルスイッチを作動させると、点滅します。

■給水ポンプランプ

給水ポンプが運転中点灯します。

注意 ●空運転に注意してください。故障の原因となります。

■グローランプ（予熱表示）

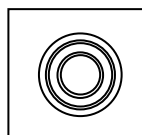
エンジン始動時、キースイッチが「入」の位置で点灯します。予熱が完了すると消灯します。

DPF関連ランプ・スイッチ

DPFに関係するランプ・スイッチです。

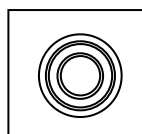
各ランプ・スイッチの役割と使用方法は、26ページ（14 - (5)）を参照ください。

■エンジン異常ランプ[赤]



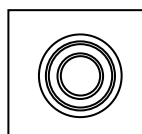
PMが多量に堆積している。または、エンジンに異常があることを警告するランプです。

■DPF 再生要求ランプ[橙]



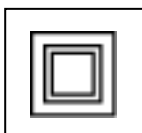
DPFの再生が必要なときに点滅して運転者に再生を促します。再生が始まると点灯し、終わると消灯します。

■DPF 再生状態ランプ[緑]



一定量のPMが堆積したとき、及び再生中に点灯します。

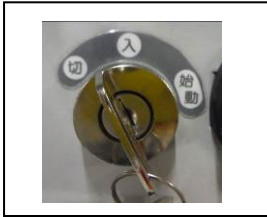
■DPF 再生スイッチ(27 ページ参照)



DPF
再生

運転者が手動で再生処理を行うときに使用します。

■キースイッチ



「切」 電流は流れません。キーの抜き差しをする位置です。

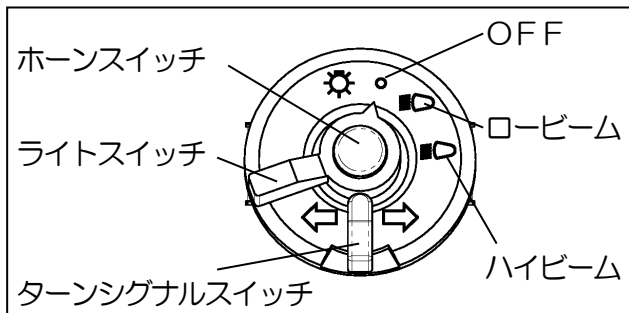
「入」 各電装品に電流が流れます。(エンジンが停止している時、オイルプレッシャランプとチャージランプが点灯します。)

グローランプが点灯し、自動で予熱されます。予熱が終了すると消灯します。

「始動」 セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したら直ちに手を離します。手を離すとキーは自動的に「入」に戻ります。

始動安全装置により、ブレーキペダルを踏み、副変速レバーを「中立・始動」にしないとエンジンは始動しません。

■コンビネーションスイッチ



●ライトスイッチ

キースイッチ「入」状態で、「OFF」状態から右に回すと点灯します。

注意 ●エンジン停止時、前照灯などを長時間点灯させるとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

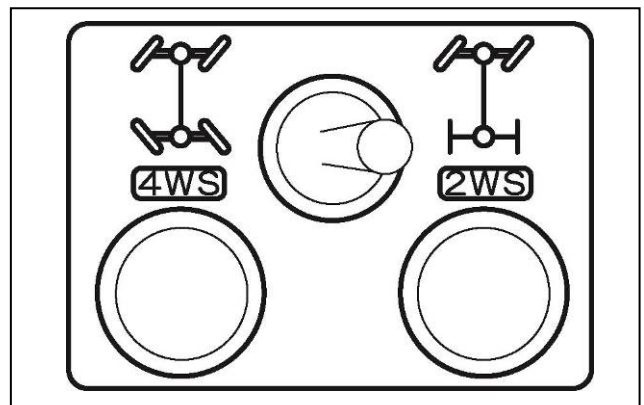
●ターンシグナルスイッチ

キースイッチ「入」の位置で作動します。スイッチを右・左に作動させると、本機前後側面の方向指示器及び、ターンシグナル表示灯が点滅します。

●ホーンスイッチ

キースイッチ「入」の位置にてラップマークの部分を押すとホーンが鳴ります。

■2WS-4WS 切換スイッチ



2WS：高速移動時に安定した走行が可能です。

機体の幅寄せも容易になります。

4WS：後輪も操舵するので、旋回半径が小さくなり、小回りができます。

●ランプ点灯中は選択されている操舵状態を示しています。切換スイッチを反対方向に操作すると操舵状態が切換わります。切換中は、ランプが点灯し同時にブザーが鳴ります。

●タイヤが直進状態以外でスイッチ操作を行うと2WS⇄4WS 切換の間はランプが点滅し、ブザーが鳴ります。その間は走行しないで、タイヤを直進状態にしてランプが点灯、ブザーが止まることを確認してください。

●副変速 L (低速) の時は、2WS⇄4WS の選択ができます。

●副変速 H (高速) の時は、2WS しか選択できません。交換スイッチを 4WS にしても走行状態は 2WS (ランプ点灯) のまま切換わりません。

●切換えスイッチが 4WS 側にある時に、副変速を L（低速）⇒H（高速）に切換えると強制的に 2WS（ランプ点灯）に切換わります。そのまま L（低速）にすると 4WS に戻ります。

●副変速 H（高速）の時は、切換スイッチの指示とランプの点灯が一致しないことがありますので注意してください。

《例》切換スイッチ設定 4WS で 2WS が点灯：副変速 H（高速）の場合、異常ではありません。

⚠ 注意

衝突、転落や転倒防止のため、4WS 切換スイッチの操作は、下記内容を厳守してください。

1. スイッチ操作は、平坦地に機体を停止させてから行ってください。走行中に操作すると操作に気を取られて、衝突・転落の恐れがあります。
2. スイッチ操作は、ハンドルを直進状態にしてから行ってください。
3. 移動走行時は、2WS を使用してください。
4. 4WS に切換えた場合は、2WS の感覚でハンドル操作を行うと、予想以上に大きな姿勢変化を起こし危険です。発進・走行前にどの操舵状態を選択しているか確認してください。

■噴霧用ポンプスイッチ



●スイッチを「入」にすると噴霧用ポンプが回転します。

注意 ●噴霧用ポンプスイッチを「入」にする場合は、必ずエンジン回転を低くして行ってください。（1500rpm 以下）

■送風機スイッチ



●スイッチを「入」にすると送風機が回転します。

注意 ●送風機スイッチを「入」にする場合は、必ずエンジン回転を若干高めにしてください。（1500rpm 程度）

■給水ポンプスイッチ



キースイッチ「入」の状態にて作動します。スイッチを押すと ON になり、スイッチが点灯、モニタランプの給水ポンプランプが点灯し、給水ポンプが回転します。もう一度押すと OFF になり、スイッチが消灯し、ポンプが停止します。

注意 ●スイッチ操作は、電磁クラッチの保護のため、エンジン回転を低くして行います。（1000～1500rpm）

- 給水ポンプの空運転はしないでください。
- 長期保管後など、給水ポンプのインペラが固着して、ポンプが回らないことがあります。その時は、ポンプ室内に水を少量入れ、インペラを湿らせてから、スイッチを入れ直してください。

■スロットルレバー



- スロットルレバーを、下側（高速）に倒すとエンジン回転が上がり、上側（低速）に倒すと下がります。



■主変速レバー

- 無段階で操作できます。

前進するときには前方へ倒します。

後進するときには後方へ倒します。

■副変速レバー

- 高速、低速の2段変速です。「中立・始動」位置より前方へ倒して「低速」後方へ倒して「高速」になります。変速操作は主変速レバーが「停止」の位置で行ってください。レバー操作が重く変速できない場合は主変速レバーを一度前方に倒してから操作してください。始動安全装置により、副変速レバーを「中立・始動」位置にし、ブレーキペダルを踏まないとエンジンは始動しません。DPF再生を行う際は、副変速レバーを「中立・始動」にします。

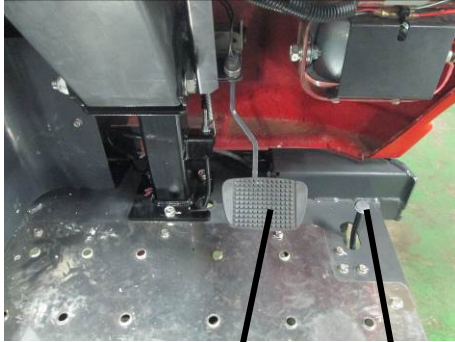
注意 ●無理に副変速レバーを操作しないでください。破損の原因となります。

■駐車ブレーキレバー

- 駐車ブレーキレバーを手前に引くと駐車ブレーキランプが点灯し、駐車ブレーキが掛かります。
- 駐車ブレーキ解除は、駐車ブレーキレバーを若干手前に引きながら、駐車ブレーキレバー先端のボタンを押し、そのまま手で保持しながら、下方へ静かに下ろします。駐車ブレーキランプが消灯していることを確認します。

⚠ 注意

- 機体から離れる場合は、必ず駐車ブレーキレバーを掛けてください。
- 坂道で駐車する時は、駐車ブレーキレバーを確実に掛けてください。急な坂では、タイヤに歯止めをしてください。
- 走行前には、必ず駐車ブレーキレバーを解除してください。解除しないで発進すると、動力伝達装置にトラブルが生じる場合があります。また、ブレーキが加熱し、ブレーキの効きが悪くなり事故を起こす原因となります。



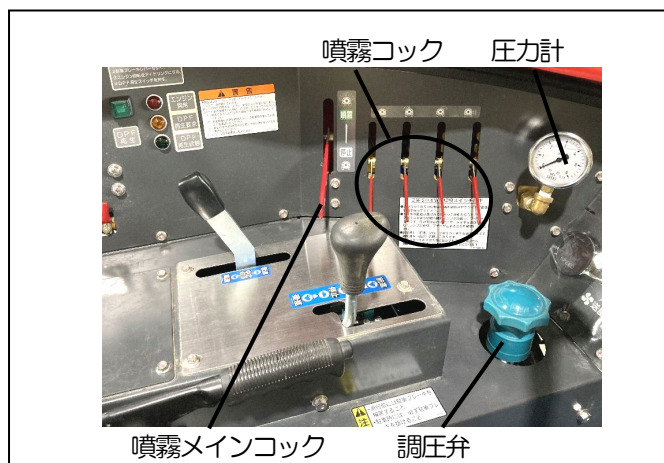
ブレーキペダル アクセルペダル

■アクセルペダル

- 移動時に使用します。スロットルレバーと連動していますので、スロットルレバーを引くとペダルは自動的に踏み込まれた位置になります。移動走行時にはアクセルペダルを必ず使用します。

■ブレーキペダル

- ブレーキペダルを踏むと機体が制動します。
始動安全装置により、副変速レバーを「中立・始動」位置にし、ブレーキペダルを踏まないとエンジンは始動しません。



■噴霧メインコック

- 全てのノズルを一度に噴霧・停止ができます。

■噴霧コック

- 4 個の噴霧コックは、左・左中・右中・右の噴霧・停止箇所の選択ができます。

■補助散布巻取機コック

- 補助散布巻取機の噴霧・停止ができます。

■圧力計

- 噴霧中の圧力が表示されます。

■調圧弁

- 噴霧用ポンプの吐出圧力を調整します。吐出圧力を段階的に調節可能です。噴霧メインコックを「噴霧」にして圧力計を見ながら握りを回し、所要の圧力に合わせます。

■バリエーションノズル切換コック

「全開」 全ノズルから吐出されます。

「前」 進行方向前側のノズル群のみ吐出されます。

「後」 進行方向後側のノズル群のみ吐出されます。

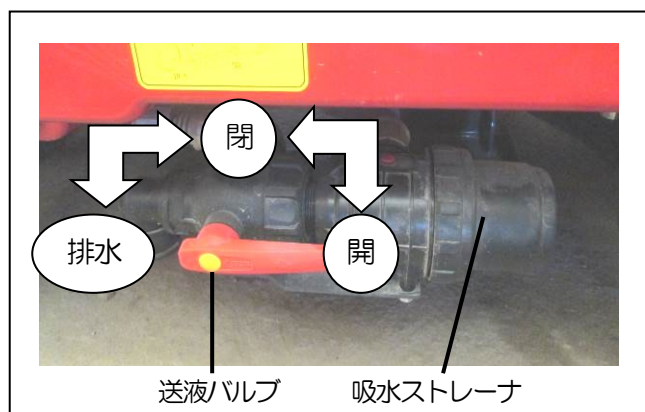
- レバーは円周方向に180° 回転します。



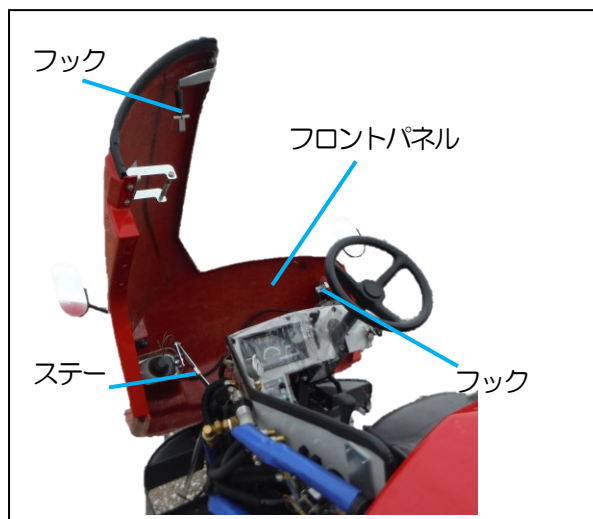
■吸水ストレーナ

- 噴霧用ポンプ運転時には、送液バルブは必ず開いておきます。
- 吸水ストレーナの清掃は、送液バルブを閉じて行います。
- 薬剤タンク内の残液を排出するときは、送液バルブを「排水」の位置にします。

注意 ●吸水ストレーナの清掃は、終業毎に行ってください。



■フロントパネルの開閉



[開け方]

- ① フロントパネル前側及び操作パネル上部のフックを外し、フロントパネルを前方に開けます。
- ② ステア中央のストッパを下方に押し、フロントパネルが倒れてこないことを確認します。

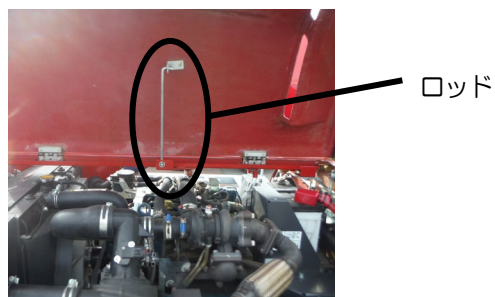
[閉め方]

- ① フロントパネルを支えながら、ステア中央のストッパを上方に軽く持ち上げ、ゆっくりとフロントパネルを閉じます。
- ② 固定用フックを確実に掛けます。

⚠ 注意

- 閉じる場合は、手をはさまないように注意し、固定用フック2個を確実に掛けてください。運転中または、輸送中にフロントパネルが開き、事故の原因となります。
- 強風下での開閉は行わないでください。風にあおられ不意に倒れ、事故の原因となります。

■ボンネットの開閉

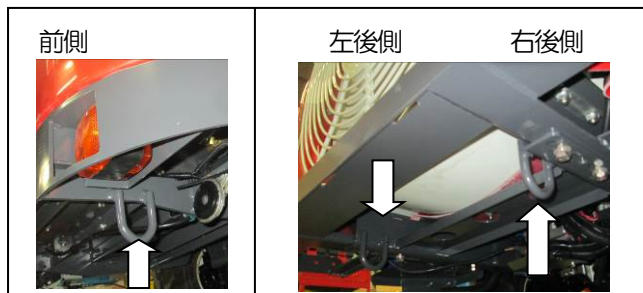


- ① ボンネット中央のフックを外し、ボンネットを上方へ開けます。
- ② ボンネットステアに収納されているロッドで固定します。

⚠ 注意

- 開閉は、必ずエンジンを停止して行ってください。回転物が露出し、傷害事故の原因となります。
- 閉じる場合は、手をはさまないように注意し、固定用フックを確実に掛けてください。運転中または、輸送中にばたつき、事故の原因となります。
- 強風下での開閉は行わないでください。風にあおられ事故の原因となります。

■けん引フック



- 前方に 1 箇所、後方に 2 箇所あります。
- 本機がぬかるみで動けなくなった時に、このフックを利用して前方または、後方に引いてください。

▲注意

- 横方向へのけん引はしないでください。フックが曲がる恐れがあるうえ、本機が転倒します。

■シート

- 前後の調整は、スライドレバーを引き上げることで調整できます。(5段階)
運転しやすい位置を選んでください。



■ハンドル

▲注意

- 片輪が勢いよく段差に乗り上げた時や窪みに入り込んだ時、ハンドルが左右に大きく動き、事故を起こす原因となります。
- 安全に走行できるように走行路を整備してください。また、凹凸が激しい所を走行する場合は、十分注意して低速で走行してください。

注意

- 燃料補給時は、エンジンを停止してください。
- 燃料補給時は、火気厳禁です。
- 燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

- 工場出荷時、燃料は運送上の安全から少量しか入れてありません。初めて使用する前には超低硫黄ディーゼル軽油を補給してください。

(SSA-α605V：タンク容量28L)

(SSA-α1005VT：タンク容量40L)

燃料は必ず超低硫黄ディーゼル軽油を使用してください。

注意 ●燃料タンクの結露を防ぐため、満タンにして保管してください。

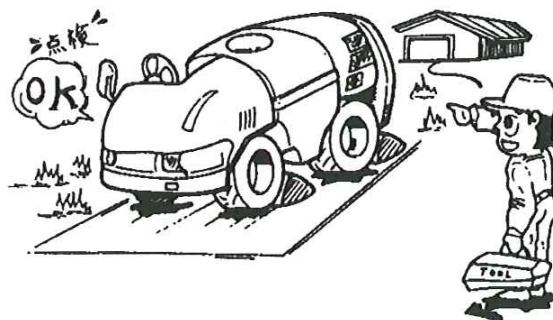
- 超低硫黄ディーゼル軽油以外の軽油を使用した場合、エンジンや排気ガス後処理装置などに悪影響を与え、故障の原因となります。また、排気ガス浄化基準に適合しなくなるおそれがあります。

■走行路の点検

- 散布作業前に、予め走行路を点検し、障害物や路肩を点検して、安全であることを確認してください。
(4ページ参照)

■機体の始業点検

- その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。始業点検を毎回行うことによって、機体に関する事故あるいは、故障などを未然に防止することができます。非常に大切な点検ですので必ず実施してください。
※点検方法の詳細は、50ページ以降をお読みください。



■かけ方



警告

- 室内で始動する時は、換気を十分行ってください。排気ガス中毒になる恐れがあります。
- マフラー及び排気口付近に障害物や燃えやすいものがあると発火するおそれがあります。駐車の際には十分注意してください。



注意

- エンジンを始動する時は、周囲の安全とカバーが閉まっていることを確認した後で始動します。

- ①駐車ブレーキを掛けます。
- ②噴霧用ポンプスイッチを「切」にします。
- ③送風機スイッチを「切」にします。
- ④給水ポンプスイッチを「切」にします。
- ⑤主変速レバーを「停止」にします。
- ⑥副変速レバーを「中立・始動」の位置にします。
- ⑦スロットルレバーを中程にします。
- ⑧ブレーキペダルをいっばいに踏みます。
- ⑨キースイッチを「入」にし、グローランプが消えるまで保持します。キースイッチを「入」にすると、警告ランプ・DPF関連ランプは球切れチェックのため、一度点灯します。
- ⑩キースイッチを「始動」にします。エンジンが始動したら、スイッチから手を離します。
- ⑪エンジンに異常がないことを各警告灯で確認します。警告灯の中でブレーキ警告灯以外が点灯している場合は、すぐにエンジンを停止し、適切な処置を行ってください。(64ページ参照)日常と違った異音がする時は、エンジンを止め原因を調べます。原因が分からない時は、販売店に連絡してください。
- ⑫スロットルレバーを「低速」側へ戻し5分間暖気運転をします。



警告

- 暖気運転は、排気ガス中毒にならないように室外で行います。

注意

- 始動安全装置により、副変速レバーを「中立・始動」の位置にし、ブレーキペダルを踏まないとエンジンは始動しません。
- 冷え込んだ時などエンジンが1回でかからない時は、再度予熱を行い始動します。セルモータを回す時間は、10秒～15秒以内にしてください。再始動はバッテリーの電圧が回復するまで30秒間休んでから行ってください。
- エンジン回転中は、キースイッチを「始動」の位置にしないでください。
- 始動直後は、エンジンが冷えていますので、無用の空吹かしや高回転にしないでください。故障の原因となります。
- 排気の状態に異常がないかを見ます。通常と異なる場合は、最寄の取扱店へ相談してください。

■止め方

- ①スロットルレバーを「低速」側にします。
- ②「低速」のまま5分間冷却運転を行います。
- ③キースイッチを「切」の位置にします。

■ならし運転

注意

- 新車（最初50時間）時の取り扱いは、本機の寿命や性能に影響します。この期間中は特に次の点に注意してください。

- ①暖気運転を十分してから作業を始めてください。
- ②使い始めて50時間目には、50ページからの方法に従ってオイルを交換してください。

⚠ 警告

- 移動走行時は、必ずアクセルペダルを使用してください。スロットルレバーでエンジン回転を上げておくと、エンジンブレーキが使用できなかったり、駆動力が大きいので、障害物に当たってもエンジンが停止せず危険です。

⚠ 注意

- 発進する時は、周囲の安全を確認してください。
- 本機より離れる場合は、必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを抜いてください。誰もいない時に予期せぬ人が機体に触れ事故を起こす恐れがあります。
- 駐車ブレーキをかけたまま走行するとブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり事故の原因となります。走行前には必ず駐車ブレーキを解除してください。

(1) 発進のかた

①エンジンを始動します。

※この時主変速レバーは「停止」の位置にあります。

②副変速レバーを所要の位置に確実に入れます。

※レバー操作が重く変速できない場合は、主変速レバーを一度前方に倒してから副変速レバーを所定の位置に入れます。その後主変速レバーを「停止」の位置に戻します。

③駐車ブレーキレバーを解除します。

④ブレーキペダルから足を放します。

⑤アクセルペダルを徐々に踏み込み、エンジン回転速度を上げます。

⑥主変速レバーを倒します。

⚠ 注意

- 副変速レバーを操作する時は、本機が完全に停止してから行ってください。
- 副変速レバーが「中立・始動」位置以外で変速レバーが前後どちらかに倒れている場合、急にブレーキペダルから足を離すと急発進し危険ですので、ブレーキペダルを踏んでいる際は、必ず主変速レバーを「停止」の位置にしてください。

⚠ 注意

- 主変速レバーの操作はゆっくりと行なってください。急な操作は、急発進・急停止につながり危険です。

(2) 走行運転のかた

⚠ 注意

- 運転者以外、人や物を乗せないでください。
- 安全のため、ヘルメットを着用してください。
- 狭い農地や路肩のあるところは十分注意して、スピードを落として走行してください。路肩はわかるように雑草を刈り取っておきます。

- 走行スピードは、アクセルペダルで調節してください。
- 主変速・副変速レバーで速度を選択できます。副変速レバーは、本機を停止させ、希望の位置に設定してください。
- 私道、農地であっても交通法規を守って運転してください。

(3) 停車・駐車のかた

⚠ 注意

- 本機から離れる時は、安全のためキーを抜いてください。
- 主変速レバーが「停止」の位置以外（走行状態）であっても、ブレーキペダルを踏めば機体は停止します。停止後は、必ず主変速レバーを「停止」の位置にしてください。

①アクセルペダルを緩めブレーキペダルを踏む、または主変速レバーを「停止」の位置にゆっくりと戻すと本機は停止します。

※ブレーキペダルを使用しなくても十分な制動力が得られます。

②主変速レバーを「停止」の位置にします。

③駐車ブレーキレバーを引き、駐車ブレーキをかけます。

④キースイッチを「切」の位置にしてエンジンを停止します。

(4) 坂道走行の注意事項

⚠ 注意

- 坂道で駐車する時は、必ず歯止めをしてください。
- 坂道では、走行スピードに注意してください。
- 下り坂では、エンジンブレーキを併用して加速を防止してください。
- 下り坂で減速する時は、アクセルペダルを戻すか、主変速レバーを「停止」側に戻してスピードをコントロールしてください。
- ブレーキペダルを踏むと機構上、エンジンブレーキが利かない状態になります。ブレーキが利き始めるまでしっかりと踏み込んでください。ブレーキ操作以外のときは、ブレーキペダルに足をのせたりしないでください。

注意 ●急な上り坂を副変速レバー「高速」の位置で走行しづらい場合は、停車後に副変速レバーを「低速」の位置に切替えてから走行してください。無理に急な上り坂を副変速レバー「高速」の位置で走行すると油圧機器の寿命を短くします。

(5) 排気ガス後処理装置

DPF（ディーゼル・パティキュート・フィルタ）マフラ

本機には、ディーゼルエンジン排気ガス中の炭化水素、一酸化炭素や他の有毒ガスを無害な二酸化炭素や水に酸化すると同時に、PM（微粒子状物質）をフィルタで捕集するDPF（ディーゼル・パティキュート・フィルタ）マフラ付きエンジンを搭載しています。DPFマフラの故障を防ぐため、必ず以下の取り扱い事項を守ってください。

⚠ 警告

- DPF再生中は排気ガスやDPFが高温になります。高温の排気ガスがあたらないように機体を人や動物などから離してしてください。
- 再生中は白煙が発生する場合があります。換気の悪い納屋等での再生は行わないでください。
- 再生中は本機から離れないでください。

●燃料

燃料は必ず超低硫黄ディーゼル軽油を使用してください。

注意 ●超低硫黄ディーゼル軽油以外の軽油を使用した場合、エンジンや排気ガス後処理装置などに悪影響を与え、故障の原因となります。また、排気ガス浄化基準に適合しなくなるおそれがあります。

●エンジンオイル

DPF搭載用ディーゼルエンジンオイル(JASO DH-2)をご使用ください。

注意 ●指定のエンジンオイル以外を使用するとDPFの早期目詰まりや燃費の悪化を招くおそれがあります。

●不必要なアイドリング運転の禁止

一般にエンジン回転が低いほど排気ガス温度も低く、排気ガス中のPM（微粒子物質）も燃焼されず堆積しやすくなります。従って、不必要なアイドリング運転はしないでください。

●再生

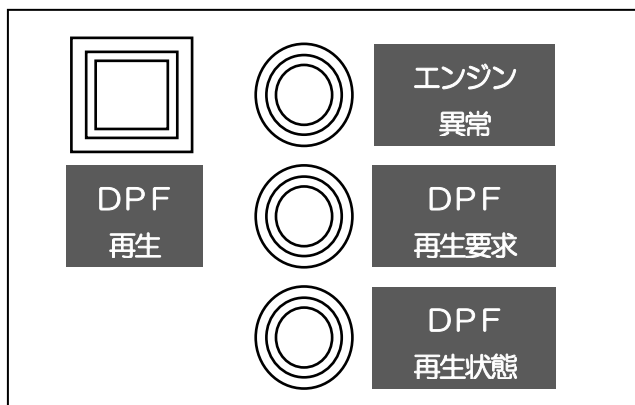
ランプやブザーで[再生]の指示サインが出たときは、速やかに再生を行ってください。

注意 ●再生の中断や警告を無視して運転を続行すると、エンジンやDPFの故障の原因となります。

●再生方法

PMが一定量堆積し、後述の「[再生]に必要な条件」が整うと、本機の走行や停車に関係なく自動的に再生処理されます。（自動再生）ただし、再生が中断された場合や、再生条件が整わず、再生されなかった場合は、[DPF再生要求ランプ]が点滅します。この場合には運転者が手動で再生処理を行う必要があります。（DPF 再生）すみやかに安全な場所に停車して再生処理を行ってください。再生の詳しい方法は、後述の「PM堆積の警告レベルとDPF再生の操作手順」を参照してください。

DPFに関するランプ・スイッチ



◎DPF 再生要求ランプ

再生が必要なときに点滅して運転者に再生を促します。再生が始まると点灯し、終わると消灯します。

◎DPF 再生状態ランプ

一定量のPMが堆積したとき、および再生中に点灯します。後述の「PM堆積の警告レベルとDPF再生の操作手順」の警告レベル3以上では点滅します。

◎エンジン異常ランプ

PMが多量に堆積しているまたはエンジンに異常があることを警告するランプです。

◎DPF 再生スイッチ

運転者が手動で再生処理を行うときに使用します。

●[再生]に必要な条件

下記の条件が全て整うと再生が始まりますが、再生途中に1つでも条件から外れると中断します。

- 1) エンジン冷却水温が充分温まっているとき
- 2) DPF温度が高温になっているとき

●PM堆積の警告レベルとDPF再生の操作手順

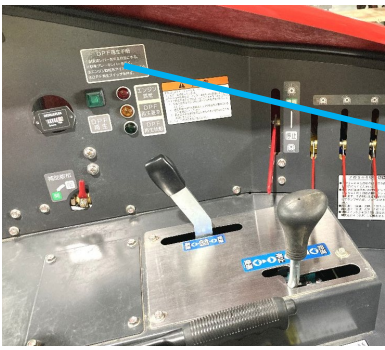
PMが一定量堆積すると自動で再生処理されますが、再生の中断や再生条件が整わなかった場合、PMの堆積レベルに応じランプの表示を変化させ、運転者に再生を促します。

DPF再生が終了すると、「DPF再生状態ランプ」

「DPF 再生要求ランプ」「エンジン異常ランプ」が消灯し、通常の運転ができるようになります。

	DPFの状態	ランプ表示	運転者が行う処理
警告レベル 1	一定量のPMが堆積	 エンジン異常  DPF 再生要求	「[再生]に必要な条件」が整えば、通常作業中でも自動で再生処理されます。散布作業や走行を続行してください。
	再生が開始される	 DPF 再生要求  DPF 再生状態	DPFや排気ガス温度が上昇しますので、影響がない場所で作業してください。
	再生が完了する	 エンジン異常  DPF 再生要求  DPF 再生状態	運転を続行してください。
再生の中断や再生条件が整わず再生が行われないと警告レベル 2になります。 			
警告レベル 2-1	一定量のPMが堆積	 エンジン異常  DPF 再生要求	「[再生]に必要な条件」が整えば、通常作業中でも自動で再生処理されます。散布作業や走行を続行してください。
	再生が開始される	 DPF 再生要求  DPF 再生状態	DPFや排気ガス温度が上昇しますので、影響がない場所で作業してください。
	再生が完了する	 エンジン異常  DPF 再生要求  DPF 再生状態	運転を続行してください。

「DPF 再生要求ランプ」が点滅したまま消灯しない場合は下記の手順で再生を行ってください。			
	DPFの状態	ランプ表示	運転者が行う処理
警告レベル 2-2	一定量のPMが堆積	 エンジン異常  DPF 再生要求  DPF 再生状態	1 本機を建物、人や燃えやすいものから離れた安全な場所も停車させてください。 2 駐車ブレーキを引いてください。 3 副変速レバーを「中立・始動」位置（ニュートラル）にしてください。 4 エンジン回転速度をアイドリングにしてください。 5 DPF 再生スイッチを押してください。 ※手順2～4を行わないと、DPF 再生スイッチを押しても再生が開始されません。  DPF 再生
	再生が開始される	 エンジン異常  DPF 再生要求  DPF 再生状態	エンジン回転速度が自動で上昇し、再生が開始されます。再生が終了するまで待機してください。
	再生が完了する	 エンジン異常  DPF 再生要求  DPF 再生状態	エンジン回転速度がアイドリング回転に戻ります。再生終了直後はDPFが高温になっていますので、約5分程度エンジンを継続して運転することを推奨します。
警告レベル 2での再生ができなかった場合 またはDPF 再生要求ランプが点滅したまま使用し続けた場合は警告レベル 3になります。 			



DPF 再生手順

- ①副変速レバーを中立位置にする。
- ②駐車ブレーキレバーを引く。
- ③エンジン回転をアイドリングにする。
- ④DPF 再生スイッチを押す。

P/N:888695

警告レベル3	多量のPMが堆積	 エンジン異常	直ちに作業を中断して、警告レベル 2-2 の手順を実行してください。 これ以上運転を続けると再生操作ができなくなります。
	再生が開始される	 DPF 再生要求  DPF 再生状態	
	再生が完了する	 エンジン異常  DPF 再生要求  DPF 再生状態	
警告レベル 3 での再生を中断、または無視して運転を続行した場合は警告レベル 4 になります。 			
警告レベル4	多量のPMが堆積	 エンジン異常  DPF 再生要求  DPF 再生状態	直ちに作業を中断して、本機を安全な場所に停車させ、販売店へ連絡してください。 これ以上運転を通けるとDPFやエンジンに致命的なトラブルが生じますので絶対に運転しないでください。

トラックへの積み・降ろし作業は、大変危険な作業です。次の事項を守り、安全に十分注意して作業を行ってください。

警告

●平坦地で助手の立会誘導のもとに行ってください。また、本機の周囲に人を近づけないでください。

- エンジン回転速度は、低速で行ってください。
- 最大積載量2000kg以上のトラックを使用してください。
- 積み込むトラックの変速は「1速」または、「R」速の位置に入れて、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて歯止めを行ってください。

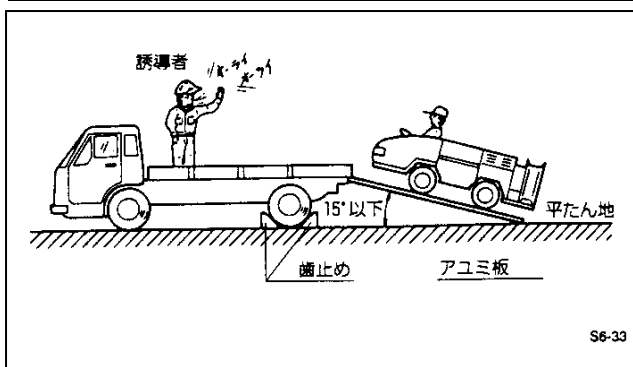
(1) アユミ板による方法

警告

●アユミ板は、十分な強度と長さ、板幅のあるすべり止め付きのものを使用してください。

アユミ板の条件

長さ	車の荷台の高さの4倍以上
幅	30cm以上
数量	2枚
強度	1枚が1000kg以上の重さに耐えうる



警告

●アユミ板のフックは荷台に段差のないように、また、ずれのないように確実にかけてください。

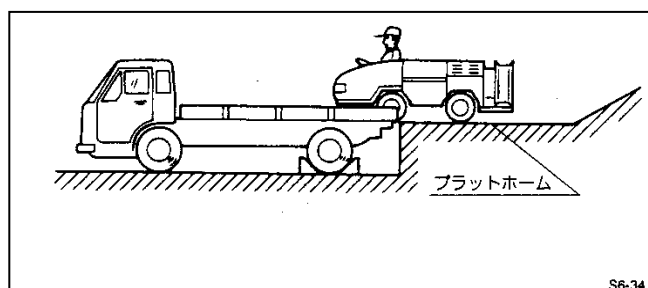
①薬剤タンク空にて前進で積み込んでください。薬剤が入っていると本機が傾いた時、重心が移動し不安定な状態になり危険です。変速は「低速」の位置で、速度は1km/h以下で行ってください。

※副変速が「高速」でも微速走行はできますが、必ず副変速は「低速」で作業してください。

②万一途中でエンストした時は、すぐにブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキを緩め、道路まで降ろしてください。

(2) プラットホームによる方法

トラックの荷台と同じ高さで、平坦にプラットフォームを造り、積み降ろしをしてください。



●トラックへ積み込んだら、駐車ブレーキをかけ、主変速レバーを「停止」、副変速レバーを「低速」に入れ、エンジンを止めてください。

●けん引フックにロープをかけて、本機を必ず固定してください。守らないとトラックが急ブレーキをかけた時に、荷台から本機が転落する恐れがあります。

警告

●飲料水源および、生物を飼育している湖沼からの直接給水は、絶対に行わないでください。薬害を起こす可能性があります。法律により罰せられる場合があるだけでなく、薬害を起こす可能性があります。

- ① 機体を停車させます。(25ページ参照)
- ② 給水ホースを送風機から外し、水源に投入します。
- ③ 給水ホースジョイント部を給水ポンプのジョイント部に差し込みます。送風機から外したもう一方のホースをタンクの水コシ網にかけます。



給水ポンプの
ジョイント部



給水ホース

タンク水コシ網

ホース



- ④ エンジンを始動します。
- ⑤ 給水ポンプスイッチを「入」にします。
- ⑥ スロットルレバーで、エンジン回転を2400rpmに調整します。
- ⑦ 薬剤タンク水量計を目安に散布に必要な量になったら、エンジン回転を低速にし、給水ポンプスイッチを「切」にします。
- ⑧ エンジンを停止します。
- ⑨ 給水ホースを格納します。

注意 ●給水しない場合は、すぐにスイッチを切り、点検して原因を取り除いてください。空運転すると故障の原因となります。

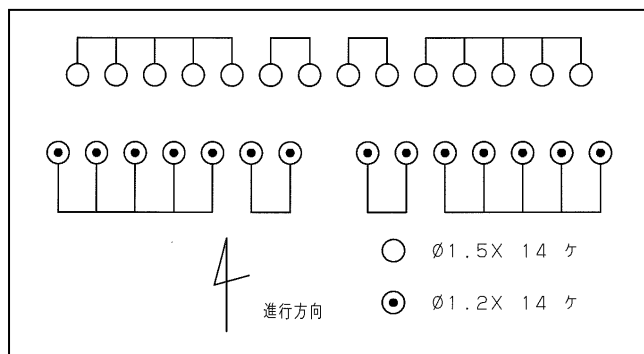
▲注意

●噴霧点検は、清水を散布して行います。

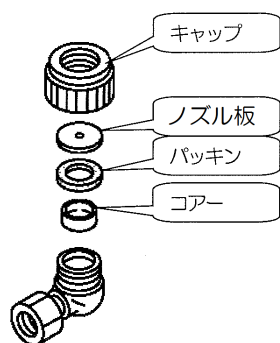
- ①水を薬剤タンクに入れ、噴霧用ポンプスイッチを「入」にします。
- ②噴霧メインコックを「噴霧」にします。
- ③噴霧コックを「噴霧」にし、噴霧状態を調べます。
 - ・ノズルにゴミなどの詰まりがないか点検します。
 - ・各噴霧コックの開閉状態を調べます。
 散布装置の使い方（20ページ参照）
- ④調圧弁で希望圧力に調整します。
標準圧力は、1.5MPaです。
- ⑤実際にほ場で試し散布をして、修正の必要な場合は修正します。散布方法（40ページ参照）

注意 ●長時間使用すると、ノズル板が摩耗し、吐出量が多くなりますので、ノズル板を交換します。
●冬季及び長期保管の場合は、ノズル内の水抜きも行ってください。

●標準出荷のノズル種類



(全て到達タイプ中子)



●出荷時の標準ノズル配列では、所望の噴霧量が得られない場合は、後述のノズル選定表により、ノズル板を選定し交換してください。

●ノズル吐出量表（到達タイプの中子の場合）

圧 力	1MPa	1.5MPa
噴口径	吐出量 (L/min)	
$\phi 0.8$	0.95	1.16
0.9	1.21	1.48
1.0	1.49	1.83
1.1	1.78	2.18
1.2	2.15	2.63
1.3	2.37	2.90
1.4	2.77	3.39
1.5	3.10	3.80
1.6	3.49	4.28
1.8	4.25	5.20
2.0	5.06	6.20
2.1	5.48	6.71

実際の吐出量は、ホースの抵抗等がある為、上記数値とは異なります。

●ノズル吐出量表（広拡タイプの中子の場合）

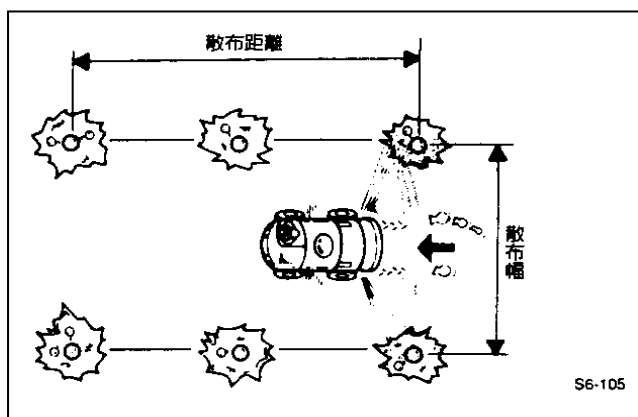
圧 力	1MPa	1.5MPa
噴口径	吐出量 (L/min)	
$\phi 0.8$	0.78	0.96
0.9	0.96	1.18
1.0	1.08	1.32
1.1	1.23	1.51
1.2	1.37	1.68
1.3	1.48	1.81
1.4	1.66	2.03
1.5	1.76	2.15
1.6	2.01	2.46
1.8	2.32	2.84
2.0	2.62	3.21
2.1	2.75	3.36

実際の吐出量は、ホースの抵抗等がある為、上記数値とは異なります。

標準出荷ノズルでは、所要の10a当たり散布量を確保できない場合、ノズル選定表よりノズル板を選定することができます。

■表の見方

- 各車速（1.5km/h、2.0km/h、2.5km/h）で10a当たり最大散布できる量を散布幅毎に示してあります。
- 散布速度欄の分/10a は各車速毎の散布作業時間を示します。
- 散布距離は各散布幅で走行した時の10a当たりの走行距離です。



- 単一のノズル板で組み合わせる場合は、表の右端が最大使用可能個数です。

注意 ●ノズル選定表左側の最大散布量を超えないようにノズル板を選定してください。ポンプ能力を超え故障の原因となります。

《例》散布幅6m、散布量 300L/10a、2.0km/hで散布したい場合、ノズル穴径をφ1.3のみとした場合24個取付けることとなります。

ノズルは総数28個、残り4個は無穴を取付けます。（ノズル選定表は、ホースのヘッドロス等を考慮して、ノズル吐出量に係数0.85をかけてあります。）

■ノズルの組み合わせ方

標準タイプにおいて、散布速度 1.5km/h、散布幅8mで10a当たり300L散布したい場合に組み合わせられるノズルを求めます。

- ①ノズル個数選定表で散布幅8mの表を開きます。
- ②L-1速の欄よりノズル板を組み合わせします。
- ③使用したいノズル板を選定します。ここでは、まずノズル穴径φ1.5で200L/10a、その他のノズルで100L/10a散布するとします。
- ④φ1.5のノズル板で200L/10aは12個となります。
- ⑤ノズル総数28個より12個を差引くと残りの使用可能個数は16個です。
- ⑥⑤で200L/10aのノズル個数を決めていますので、残りのノズルで100L/10aをノズル個数が16個となるよう組合せします。
- ⑦φ0.9×16個(100L/10a)が選定できます。

$$\begin{array}{r} \phi 1.5 \times 12 \text{ 個 (200L/10a)} \\ +) \quad \phi 0.9 \times 16 \text{ 個 (100L/10a)} \\ \hline 28 \text{ 個 (300L/10a)} \end{array}$$

- ⑧色々な組み合わせができますので、ほ場形態や作物形態に合わせて組み合わせてください。

●その他の組み合わせ例

(2.5km/h、幅6m、300L/10a)

φ1.5×15個(200L/10a)

φ1.2×6個(50L/10a)

+) φ1.1×7個(50L/10a)

28個(300L/10a)

- 表にない散布幅や圧力でやりたい場合は、最寄りの営業所迄お問い合わせください。

- 実際のほ場では、地盤の状態がさまざまですので、散布速度にズレが生じます。実際にほ場内を走行し、散布量を補正することをおすすめします。

ノズル個数選定表(到達タイプ中子使用)

ノズル個数選定表

散布幅		4.5	(m)	散布距離										222		(m/10a)	
散布速度	ノズル径	散布量 L/10a										散布量 L/10a					
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600				
SSA-α605 ホワア 吸水 SSA-α1005 ホワア 吸水 調整圧力	1.5 (km/h)	08 1.0	6	11	17	23											
		09 1.3	4	9	13	18	22	27									
		10 1.6	4	7	11	14	18	22	25								
		11 1.9	3	6	9	12	15	18	21	24	27						
散布速度	8.9	12 2.2	3	5	8	10	13	15	18	20	23	25	28				
		13 2.5	2	5	7	9	11	14	16	18	21	23	25	27			
		14 2.9	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	21	23			
		15 3.2	2	3	5	7	9	10	12	14	16	17	19	21			
SSA-α1005 調整圧力	min/10a	16 3.6	2	3	5	6	8	9	11	12	14	15	17	19			
		18 4.4	1	3	4	5	6	8	9	10	11	13	14	15			
		20 5.3	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	13			
		21 5.7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
ノズル数	28 (個)	08 1.0	8	15	23												
		09 1.3	6	12	18	24											
		10 1.6	5	10	14	19	24										
		11 1.9	4	8	12	16	20	24									
最大散布量 (SSA-α605)	2.0 (km/h)	12 2.2	3	7	10	13	17	20	23	27							
		13 2.5	3	6	9	12	15	18	21	24	27						
		14 2.9	3	5	8	10	13	16	18	21	23	26					
		15 3.2	2	5	7	9	12	14	16	19	21	23	26	28			
最大散布量 (SSA-α1005)	6.7 (km/h)	16 3.6	2	4	6	8	10	12	14	16	19	21	23	25			
		18 4.4	2	3	5	7	8	10	12	14	15	17	19	20			
		20 5.3	1	3	4	6	7	9	10	11	13	14	16	17			
		21 5.7	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	14	16			
※逆つづし部分は α1005のみ対応	2.5 (km/h)	08 1.0	10	19													
		09 1.3	7	15	22												
		10 1.6	6	12	18	24											
		11 1.9	5	10	15	20	25										
散布速度	5.3	12 2.2	4	8	13	17	21	25									
		13 2.5	4	8	11	15	19	23	27								
		14 2.9	3	7	10	13	16	20	23	26							
		15 3.2	3	6	9	12	15	17	20	23	26						
SSA-α1005 調整圧力	min/10a	16 3.6	3	5	8	10	13	15	18	21	23	26					
		18 4.4	2	4	6	8	11	13	15	17	19	21	23				
		20 5.3	2	4	5	7	9	11	12	14	16	18	20				
		21 5.7	2	3	5	7	8	10	12	13	15	16	18				

SSA- α 605

ノズル吸水

90.0 (L/min)

SSA- α 1005

ノズル吸水

115.0 (L/min)

噴霧圧力

1.5 (MPa)

散布速度

1.5 (km/h)

2.0 (km/h)

2.5 (km/h)

28 (個)

ノズル数

最大散布量(SSA- α 605)

1.5(km/h)

720 (L/10a)

2.0(km/h)

540 (L/10a)

2.5(km/h)

432 (L/10a)

最大散布量(SSA- α 1005)

1.5(km/h)

920 (L/10a)

2.0(km/h)

690 (L/10a)

2.5(km/h)

552 (L/10a)

※塗りつぶし部分は

 α 1005のみ対応

ノズル個数選定表

散布幅		6		(m)		散布距離										167		(m/10a)							
散布速度	ノズル径	散布量 L/10a										散布量 L/10a													
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600
1.5 (km/h)	0.8	1.0	8	15	23																				
	0.9	1.3	6	12	18	24																			
	1.0	1.6	5	10	14	19	24																		
	1.1	1.9	4	8	12	16	20	24																	
6.7	1.2	2.2	3	7	10	13	17	20	23	27															
	1.3	2.5	3	6	9	12	15	18	21	24	27														
	1.4	2.9	3	5	8	10	13	16	18	21	23	26													
	1.5	3.2	2	5	7	9	12	14	16	19	21	23	26	28											
min/10a	1.6	3.6	2	4	6	8	10	12	14	16	19	21	23	25											
	1.8	4.4	2	3	5	7	8	10	12	14	15	17	19	20											
	2.0	5.3	1	3	4	6	7	9	10	11	13	14	16	17											
	2.1	5.7	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	14	16	17										
2.0 (km/h)	0.8	1.0	10	20																					
	0.9	1.3	8	16	24																				
	1.0	1.6	6	13	19	26																			
	1.1	1.9	5	11	16	22	27																		
5.0	1.2	2.2	4	9	13	18	22	27																	
	1.3	2.5	4	8	12	16	20	24																	
	1.4	2.9	3	7	10	14	17	21	24	28															
	1.5	3.2	3	6	9	12	15	19	22	25	28														
min/10a	1.6	3.6	3	5	8	11	14	16	19	22	25	27													
	1.8	4.4	2	5	7	9	11	14	16	18	20	23													
	2.0	5.3	2	4	6	8	9	11	13	15	17	19													
	2.1	5.7	2	4	5	7	9	11	12	14	16	18													
2.5 (km/h)	0.8	1.0	13	25																					
	0.9	1.3	10	20																					
	1.0	1.6	8	16	24																				
	1.1	1.9	7	13	20	27																			
4.0	1.2	2.2	6	11	17	22	28																		
	1.3	2.5	5	10	15	20	25																		
	1.4	2.9	4	9	13	17	22	26																	
	1.5	3.2	4	8	12	15	19	23	27																
min/10a	1.6	3.6	3	7	10	14	17	21	24	27															
	1.8	4.4	3	6	8	11	14	17	20	23															
	2.0	5.3	2	5	7	9	12	14	17	19															
	2.1	5.7	2	4	7	9	11	13	15	18															

※※※

SSA- α 605

ノズル吸水

90.0 (L/min)

SSA- α 1005

ノズル吸水

115.0 (L/min)

噴霧圧力

1.5 (MPa)

散布速度

1.5 (km/h)

2.0 (km/h)

2.5 (km/h)

28 (個)

ノズル数

最大散布量(SSA- α 605)

1.5(km/h)

720 (L/10a)

2.0(km/h)

540 (L/10a)

2.5(km/h)

432 (L/10a)

最大散布量(SSA- α 1005)

1.5(km/h)

920 (L/10a)

2.0(km/h)

690 (L/10a)

2.5(km/h)

552 (L/10a)

※塗りつぶし部分は

 α 1005のみ対応

ノズル個数選定表(到達タイプ中子使用)

ノズル個数選定表

散布幅 7 (m)		散布距離 143 (m/10a)									
散布速度	ノズル径	散布量 L/10a									
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500
1.5 (km/h)	08 1.0	9	18	27							
	09 1.3	7	14	21	28						
	10 1.6	6	11	17	23						
	11 1.9	5	9	14	19	24					
5.7 (km/h)	12 2.2	4	8	12	16	20	23	27			
	13 2.5	4	7	11	14	18	21	25			
	14 2.9	3	6	9	12	15	18	21	24	27	
	15 3.2	3	5	8	11	14	16	19	22	24	27
min/10a	16 3.6	2	5	7	10	12	14	17	19	22	24
	18 4.4	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20
	20 5.3	2	3	5	7	8	10	12	13	15	17
	21 5.7	2	3	5	6	8	9	11	12	14	15
2.0 (km/h)	08 1.0	12	24								
	09 1.3	9	19	28							
	10 1.6	8	15	23							
	11 1.9	6	13	19	25						
4.3 (km/h)	12 2.2	5	10	16	21	26					
	13 2.5	5	9	14	19	24					
	14 2.9	4	8	12	16	20	24				
	15 3.2	4	7	11	14	18	22	25			
min/10a	16 3.6	3	6	10	13	16	19	22	26		
	18 4.4	3	5	8	11	13	16	18	21		
	20 5.3	2	4	7	9	11	13	15	17	18	
	21 5.7	2	4	6	8	10	12	14	16		
2.5 (km/h)	08 1.0	15									
	09 1.3	12	23								
	10 1.6	9	19								
	11 1.9	8	16	24							
3.4 (km/h)	12 2.2	7	13	20	26						
	13 2.5	6	12	18	24						
	14 2.9	5	10	15	20	25					
	15 3.2	5	9	14	18	23	27				
min/10a	16 3.6	4	8	12	16	20	24				
	18 4.4	3	7	10	13	16	20	23			
	20 5.3	3	6	8	11	14	17	19			
	21 5.7	3	5	8	10	13	15	18			

SSA-α605
ノズル吸水SSA-α1005
ノズル吸水噴霧圧力
1.5 (MPa)散布速度
1.5 (km/h)

2.0 (km/h)

2.5 (km/h)

ノズル数
28 (個)

最大散布量(SSA-α605)

1.5(km/h) 720 (L/10a)

2.0(km/h) 540 (L/10a)

2.5(km/h) 432 (L/10a)

最大散布量(SSA-α1005)

1.5(km/h) 920 (L/10a)

2.0(km/h) 690 (L/10a)

2.5(km/h) 552 (L/10a)

※塗りつぶし部分は
α1005のみ対応

ノズル個数選定表

散布幅 8 (m)		散布距離 125 (m/10a)									
散布速度	ノズル径	散布量 L/10a									
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500
1.5 (km/h)	08 1.0	10	20								
	09 1.3	8	16	24							
	10 1.6	6	13	19	26						
	11 1.9	5	11	16	22	27					
5.0 (km/h)	12 2.2	4	9	13	18	22	27				
	13 2.5	4	8	12	16	20	24				
	14 2.9	3	7	10	14	17	21	24	28		
	15 3.2	3	6	9	12	15	19	22	25	28	
min/10a	16 3.6	3	5	8	11	14	16	19	22	25	27
	18 4.4	2	5	7	9	11	14	16	18	20	23
	20 5.3	2	4	6	8	9	11	13	15	17	19
	21 5.7	2	4	5	7	9	11	12	14	16	18
2.0 (km/h)	08 1.0	14	27								
	09 1.3	11	21								
	10 1.6	9	17	26							
	11 1.9	7	14	22							
3.8 (km/h)	12 2.2	6	12	18	24						
	13 2.5	5	11	16	22	27					
	14 2.9	5	9	14	19	23	28				
	15 3.2	4	8	12	17	21	25				
min/10a	16 3.6	4	7	11	15	18	22	26			
	18 4.4	3	6	9	12	15	18	21			
	20 5.3	3	5	8	10	13	15	18			
	21 5.7	2	5	7	9	12	14	16			
2.5 (km/h)	08 1.0	17									
	09 1.3	13	26								
	10 1.6	11	21								
	11 1.9	9	18	27							
3.0 (km/h)	12 2.2	7	15	22							
	13 2.5	7	14	20	27						
	14 2.9	6	12	17	23						
	15 3.2	5	10	15	21	26					
min/10a	16 3.6	5	9	14	18	23	27				
	18 4.4	4	8	11	15	19	23				
	20 5.3	3	6	9	13	16	19				
	21 5.7	3	6	9	12	15	18				

SSA-α605
ノズル吸水SSA-α1005
ノズル吸水噴霧圧力
1.5 (MPa)散布速度
1.5 (km/h)

2.0 (km/h)

2.5 (km/h)

ノズル数
28 (個)

最大散布量(SSA-α605)

1.5(km/h) 720 (L/10a)

2.0(km/h) 540 (L/10a)

2.5(km/h) 432 (L/10a)

最大散布量(SSA-α1005)

1.5(km/h) 920 (L/10a)

2.0(km/h) 690 (L/10a)

2.5(km/h) 552 (L/10a)

※塗りつぶし部分は
α1005のみ対応

■ 散布ノモグラフ

● 散布ノモグラフの使い方を説明します。

① グラフにおいて所要の散布速度及び散布幅を直線で結びます。

(一例として散布幅：7m、

散布速度：1.4 km/h

としてみます。)

② この直線と対角線の交点aと 10a 当たりの散布量を結び延長し、上部横軸の交点が毎分の吐出量になります。

(この例ではノズル吐出量を75L/min とした場合、10a 当り400L 散布可能ということです。)

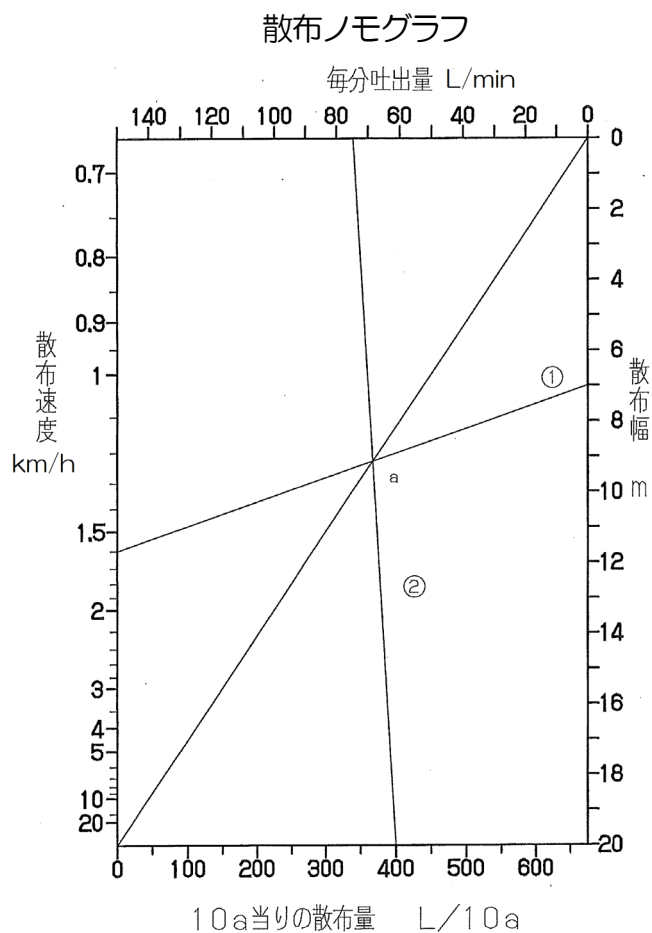
このノズル吐出量が噴霧用ポンプ吐出量の91%以上の場合、動噴の能力不足ですので散布速度を遅くします。

実際には、タイヤのスリップ等でズレが生じますので、散布したい速度段で園地の散布経路を走行し、実速度を測定することをおすすめします。

● ノズル噴霧量が動噴の吐出量の 90%以下になるように設定してください。

● ノズル噴霧量はエンジン回転速度、噴霧用ポンプ吐出量の関係グラフより読み取った噴霧用ポンプ吐出量から下記計算式に当てはめて計算します。

最大ノズル噴霧量 L/min=(噴霧用ポンプ×0.90)



■エンジン回転速度と風量、噴霧用

ポンプ吐出量の関係

●エンジン回転速度と風量、噴霧用

ポンプ吐出量の関係がグラフから読み取れます。

- 例えば、SSA- α 605Vにおいて
エンジン回転速度 2000rpm の時は
エンジン回転速度の縦線と吐出量及び、
風量との交点部を横に読み取ります。

吐出量：約 75L/min

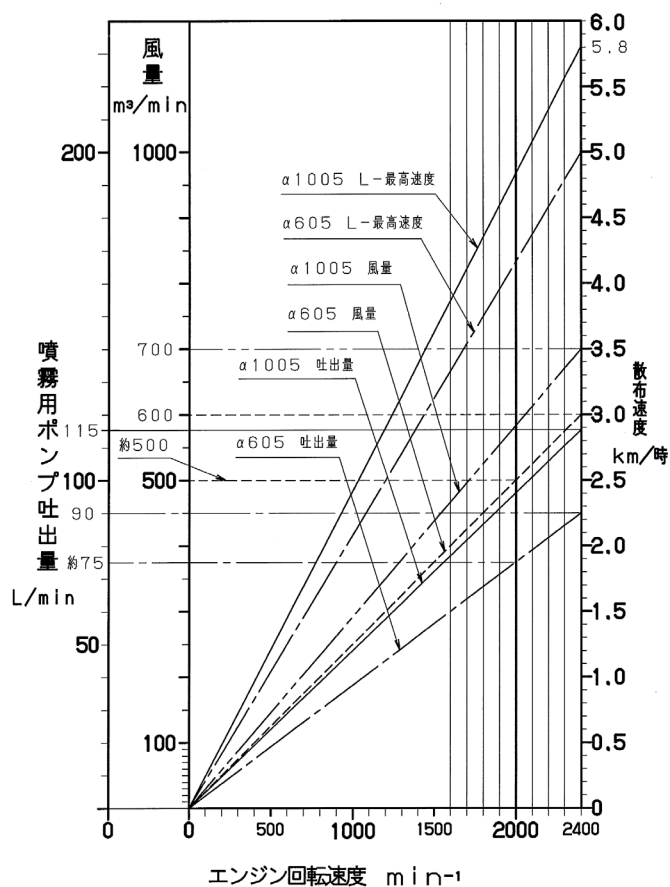
風 量：約 500m³/min

と、なります。

吐出量は噴霧量ポンプの全吐出量を表していますので、
ノズル噴霧量は散布速度ノモグラフの最大ノズル噴霧
量の計算式で、噴霧用ポンプ吐出量を上記数字に入れ
替えて計算します。

エンジン回転速度—散布速度、 風量、噴霧用ポンプ吐出量

エンジン回転速度—速度、風量、噴霧用ポンプ吐出量



⚠ 危険

- 強酸性の薬品、塗料、シンナー、ガソリン、灯油、ベンジン、アルコールなどを噴霧しないでください。火傷や、火災の可能性があります。
- 引火性の高い薬剤は火災の恐れがありますので使用しないでください。

⚠ 警告

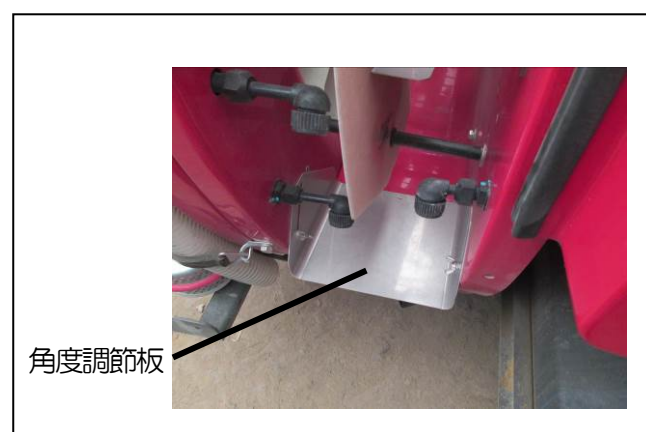
- 散布作業者は、農薬散布用保護具（保護マスク、長靴、ゴム手袋、保護衣、ヘルメット等）を着用し、直接薬剤が身体に付かないようにして散布作業を行います。
- 散布計画を立て、薬剤は余らないように作ってください。
- 散布作業は、樹形・地形・ほ場の状況を考慮して安全な方法で行います。特に傾斜地での作業は、旋回部の傾斜角度を含め10°以内とします。

⚠ 注意

- ノズルから薬液が噴出します。エンジンが運転中は噴頭部に近づかないでください。
- 散布直後のほ場には入らないようにします。
- 走行順路の障害物は予め撤去し、安全走行ができるように整備し、旋回部は本機の旋回に支障のない広さをとります。
- 路肩が不完全と思われる場合は、石積みまたは、コンクリートで補修します。

注意 ● 有機溶剤を含む薬剤の使用はお控えください。有機溶剤はパッキン、ホース類を傷めやすい薬剤です。やむを得ず使用される場合は、使用後に必ず清水で十分に洗浄してください。洗浄が不十分ですと、パッキン、ホース類が損傷し、機体故障の原因になります。

- 散布速度は、1～3km/h 位が適当です。
- 路面にワラ等を敷くと走行及び散布作業の妨げになります。
- 自然風への対処
本機が稼動できる自然風速の限界は、3m/秒位です。散布者が風上になるように、散布計画を立ててください。風のある日は風向き及びその変化に注意し、走行順路、走行速度を適宜変化させて、付着性や到達性の低下を防ぐようにします。
- 障害物等により走行が困難な場合は、手散布で補います。
- 傾斜地での後進散布は絶対避けてください。
- 樹形や散布量によりノズルの個数、角度、穴径を選定し、効果的に散布を行い、薬剤の無駄を少なくします。
- ハンドルをいっぱいまで回すと、エンジン回転速度が低下し、送風機の風量が低下します。
その場合はハンドルを少し戻し、エンジン回転速度が低下しないようにして散布作業を行ってください。

■ 角度調節板の使い方

- 散布対象の樹形に合わせて、角度調節板で風の出る方向を調節してください。

⚠ 注意

●薬剤は薬剤に添付されている取扱説明書を良く読んで、正しく取り扱ってください。

- ①調合は専用の容器で、必要な量だけ調合します。
- ②水和剤は予め、別の容器で少量の水によく溶かしておきます。
※薬剤を薬剤タンクに入れる時には、給水後に行います。
- ③噴霧コックが「停止」の位置にあることを確認してから、噴霧用ポンプスイッチを「入」にして、スロットルレバーを中程(1500～2000rpm)の位置にします。
薬剤タンク内がかくはんされます。

⚠ 注意

●かくはん機はエンジンを始動すると同時に回転し、エンジン回転に連動して回転数が変動します。

- ④薬剤を外部に漏らさないようにして、かき混ぜながら少しずつ薬剤タンクに入れ、全体が均一になるように十分かくはんします。

※展着剤は泡立ち防止のため、十分にかくはんしてから入れます。

- ⑤散布場所まで移動します。
- ⑥散布を始めたい位置より手前で停車します。

注意 ●水コシ網は必ず使用し、散布終了後は、吸水ストレーナと一緒に清掃してください。

散布中は、噴霧点検で選定した走行速度で散布します。

- ①送風機スイッチを「入」にします。
- ②主変速レバーが「停止」位置になっていることを確認した後、副変速レバーを「低速」に入れます。
- ③スロットルレバーを引いて、エンジン回転を2400rpmにします。
- ④噴霧メインコックを「停止」にし、各噴霧コックを「噴霧」にします。
- ⑤主変速レバーを倒して、選定した速度に合わせます。

- ⑥散布を始めたい所で、噴霧メインコックを「噴霧」の位置に操作します。

- ⑦樹形や木の配置により、各噴霧コックを開閉し、不要なところへ散布しないようにします。

注意 ●断続的に散布する場合は、噴霧メインコック操作のみで作業ができます。

- 薬剤が空になった後、ポンプを1分間以上回し続けないようにします。
- 散布作業中、むやみに噴霧用ポンプスイッチを操作しないでください。
- 副変速レバーが入りづらい場合は、ブレーキペダルを踏み直すか、変速レバーを操作してみてください。

⚠注意

●エンジンを停止し、キーを抜いてください。エンジンを掛けのまま洗浄作業をすると、薬剤タンク内の攪拌羽が回転するため危険です。

●使用後の機体は十分洗浄します。

(1) 薬剤タンク内を洗浄します。

- ①タンク内に薬剤が残っていた場合は、残液を受ける容器を送液バルブの下に置き、送液バルブを「排水」の位置にし排水します。(20ページ参照)
- ②吸水ストレーナの下に容器を置き、吸水ストレーナのキャップを外し排水します。
- ③吸水ストレーナを洗浄し、元に戻してキャップを締めます。
- ④送液バルブを「開」の位置にします。
- ⑤薬剤タンク内に清水を補給します。
(100L以上)
- ⑥エンジンを始動し噴霧用ポンプスイッチを「ON」にし、噴霧メインコック・噴霧コックを「噴霧」にしてノズルから霧を出します。清水がなくなるまで散布し、エンジンを停止します。
- ⑦薬剤タンクの水コシ網を清掃します。

注意 ●薬剤タンクが空になった後、噴霧用ポンプを1分以上回し続けしないでください。

(2) 本機の清掃

⚠注意

●シートをかけるときは、本機が冷却してから行ってください。シートが発火する原因となります。

注意 ●電装品には、水をかけないようにしてください。特に高圧になる洗浄水は、直接かけないようにしてください。故障の原因となります。

●エンジンに水をかけないでください。エンジンが急冷され故障の原因となります。

●シートをかけるときは、本機が乾いてから行ってください。腐食の原因となります。

- ①清水できれいに洗浄します。
- ②送風機の吸い込み口のゴミは、きれいに除去します。
- ③薬剤を保管庫に戻し、鍵をかけて保管します。農薬使用日記をつけます。
- ④使用した容器を洗浄します。
- ⑤本機を保管場所に入れ、キーを抜きます。
- ⑥必要に応じてシートをかけます。

(3) 保護具を洗浄します。

(4) 衣服を脱ぎ、全身を洗います

⚠注意

●エンジンルーム内の点検は、始業点検で実施します。作業後は、熱く火傷の恐れがあります。

メモ

本機を安全に使用するために、必要な定期整備はこの方式に基づいて行います。

「点検整備方式」は「始業点検」と「定期点検（使用時間毎）」とに分かれています。まとめた様式で記載してあります。自分で点検できない・点検しても判断できないものは、最寄の取扱店に依頼してください。

■：本製品は除く

点検項目			点検時間			点検方法	
			始業	廻50廻	時間毎		
かじ取り装置	ハンドル	遊び・緩み及びかた		○	100	P.57参照	
		操作具合		○	100	左右にハンドルをきる	
	ギヤボックス	油漏れ		○	100	目視及び手で触れて確認	
		取付けの緩み・かた及び損傷			100	目視及び手で触れて確認	
	ロッド及びアーム類	取付けの緩み・かた及び損傷			100	目視及び手で触れて確認	
	かじ取り車輪	ホイールアライメント			100	P.57参照	
		左右の回転角度			100	左右にハンドルをきる	
	パワーステアリング	ホースの損傷			200	目視にて確認	
		オイルの量		○	200	目視にて確認	
		取付けの緩み・かた			100	目視及び手で触れて確認	
制動装置	ブレーキペダル	遊び				P.57参照	
		踏みしろ	○			ペダルを軽く踏み込む	
		ブレーキの効き具合	○			低速で走り作動させる	
	駐車ブレーキレバー	引きしろの余裕	○			P.57参照	
		ブレーキのきき具合	○			P.57参照	
		ラチェット部の摩耗及び損傷	○			目視にて確認	
	ロッド及びケーブル類	緩み・かた及び損傷		○	100	目視及び手で触れて確認	
	ブレーキディスク	ペダルの遊び及び踏みしろ		○	200	P.57参照	
走行装置	タイヤ	空気圧	○			P.56参照	
		亀裂及び損傷	○			目視にて確認	
		ラグの高さ及び異常な摩耗	○			P.56参照	
		異物の付着	○			目視にて確認	
	ホイール	タイヤの状態	○			目視にて確認	
		ホイール・ナットの緩み		○	100	P.56参照	
		リム等・ホイールディスクの損傷	○			目視にて確認	
		フロント・ホイールベアリングのかた			200	最寄の取扱店に依頼	
		リヤ・ホイールベアリングのかた			200	最寄の取扱店に依頼	

注意

- 点検整備を行う時は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、キーを抜いてバッテリーからマイナスコードを外してから行ってください。
- エンジンをかけた状態で、点検整備を行う必要がある場合は、自分では行わずに、必ず販売店のサービス担当者に依頼してください。
- オイル・クーラント等を交換する際は、廃油受けを置いてこぼれないようにしてください。
- バッテリー・オイル・クーラント等を廃棄する時には、購入店などに相談し、適正に廃棄してください。

	判定基準	整備の方法	実施日									備考
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	
	エンジン始動時ハンドル外周で遊び 100 mm以下上下方向がた 3 mm以下	最寄の取扱店に依頼する										
	ハンドル回転時「っかかりがないか」	最寄の取扱店に依頼する										
	油が漏れていないか	最寄の取扱店に依頼する										
	ボルトの緩みがないか固定は確実か	最寄の取扱店に依頼する										
	ボルトの緩みがないか固定は確実か	最寄の取扱店に依頼する										
	トイン4～6mm	最寄の取扱店に依頼する										
	左右の回転数差 0.5 回転以内	最寄の取扱店に依頼する										
	油漏れ、傷がないか	最寄の取扱店に依頼する										
	油面が「ゲージ内にあるか」	P.53参照										
	ボルトの緩みがないか	最寄の取扱店に依頼する										
	5～10mm	最寄の取扱店に依頼する										
	ペダル先端のストローク 70 mm以下	最寄の取扱店に依頼する										
	低速で走り停止できるか	最寄の取扱店に依頼する										
	通常に引き 3～5 ノッチ	最寄の取扱店に依頼する										
	低速で走り停止できるか	最寄の取扱店に依頼する										
	引いた状態で固定できるか	最寄の取扱店に依頼する										
	緩み、がた及び損傷がないか	最寄の取扱店に依頼する										
	遊び5～10mm ペダル先端のストローク 70 mm以下	最寄の取扱店に依頼する										
	基準値 $\pm 10\text{kPa}$	P.56参照										
	亀裂及び損傷がないか	P.56参照										
	タイヤ中央ラグ高さ5mm以上あるか	P.56参照										
	異物が付着しているか	除去する										
	タイヤとホイールがずれていないか	最寄の取扱店に依頼する										
	ナットの緩みがないか	最寄の取扱店に依頼する										
	変形がないか	最寄の取扱店に依頼する										
	異常ながたがないか	最寄の取扱店に依頼する										
	異常ながたがないか	最寄の取扱店に依頼する										

点検項目			点検時間			点検方法	
			始業	初回50欄	時間毎		
動力伝達装置	分配器	油漏れ		○	200	目視にて確認	
		油量		○	300	P.54参照	
	HST	油漏れ	○			目視にて確認	
	サブミッション	油漏れ		○	200	目視にて確認	
		油量		○	300	P.54参照	
	変速レバー	操作機構の緩み・かた・損傷		○	100	目視及び手で触れて確認	
	プロペラシャフト	連結部の緩み		○	200	目視及び手で触れて確認	
		スプライン部のかた		○	200	目視及び手で触れて確認	
		軸受部のかた		○	200	目視及び手で触れて確認	
		プロペラシャフトの振れ		○	200	高速で走る	
	フロントデフ リヤデフ	油漏れ		○		目視にて確認	
		油量			200	P.54参照	
	Vベルト	ベルトの緩み		○	100	P.55参照	
		損傷	○			目視にて確認	
原動機	始動装置	かかり具合	○			エンジンを始動する	
	充電装置	充電作用	○			目視にて確認	
	バッテリー	液量	○			P.55参照	
		ターミナル部の接続状態	○			P.55参照	
	電気配線	損傷及び接続部の緩み			200	目視にて確認	
	本体	かかり具合・異常音	○			エンジンを始動する	
		低速・加速の状態	○			アイドリング保持・加減速させる	
		排気の状態	○			加減速させる	
		エアクリーナエレメントの状態	○		100	目視にて確認	
	潤滑装置	油漏れ		○	200	目視にて確認	
		オイルの汚れ及び量	○			P.50参照	
	燃料装置	燃料漏れ		○	100	目視にて確認	
		燃料フィルタの詰まり		○	100	P.52参照	
		ウォーターセパレータの状態	○		100	目視にて確認	
	冷却装置	水漏れ	○			目視にて確認	
		水量	○			P.50参照	
		ファンベルトの緩み及び損傷	○			P.51参照	
	DPF（マフラ）	取付けの緩み及び損傷	○			目視にて確認	
計器類	灯火装置	点灯具合・汚れ・損傷	○			目視にて確認	
	方向指示器	点灯具合・汚れ・損傷	○			目視にて確認	
	警音器（ホーン）	作用	○			音の確認	
	反射装置（後部反射鏡）	汚れ・損傷	○			目視にて確認	
	計器	作用		○		目視にて確認	

	判定基準	整備の方法	実施日									備考
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	
	油が漏れていないか	最寄の取扱店に依頼する										
	検油口までオイルがあるか	最寄の取扱店に依頼する										
	油が漏れていないか	最寄の取扱店に依頼する										
	スムーズに操作できるか	最寄の取扱店に依頼する										
	検油口までオイルがあるか	最寄の取扱店に依頼する										
	スムーズに操作できるか	最寄の取扱店に依頼する										
	緩みがないか	最寄の取扱店に依頼する										
	異常な力がかからないか	最寄の取扱店に依頼する										
	異常な力がかからないか	最寄の取扱店に依頼する										
	走行時に異常振動、異音がないか	最寄の取扱店に依頼する										
	油が漏れていないか	最寄の取扱店に依頼する										
	検油口までオイルがあるか	最寄の取扱店に依頼する										
	たるみ量が多くはないか	最寄の取扱店に依頼する										
	傷・異常摩耗はないか	最寄の取扱店に依頼する										
	始動時異常音がないか	最寄の取扱店に依頼する										
	エンジン始動時充電ランプが消えるか	最寄の取扱店に依頼する										
	規定線以内か	P.55参照										
	手で緩まないか	P.55参照										
	皮膜がはがれていないか	最寄の取扱店に依頼する										
	正常にエンジンが始動するか	最寄の取扱店に依頼する										
	異常音がしないか	最寄の取扱店に依頼する										
	異常と感じる黒煙がでていないか	最寄の取扱店に依頼する										
	ごみの付着が少ないか	P.50参照										
	油漏れしていないか	最寄の取扱店に依頼する										
	油面がゲージ内にあるか、黒くないか	P.50参照										
	燃料配管系統に漏れがないか	最寄の取扱店に依頼する										
	フィルタカップ内にゴミがないか	P.52参照										
	カップの底に水やゴミが溜まってないか	P.52参照										
	冷却水が漏れていないか	最寄の取扱店に依頼する										
	適正な量になっているか	P.50参照										
	100Nで押した時のたわみ7mm以下	最寄の取扱店に依頼する										
	ガス漏れ等がないか	最寄の取扱店に依頼する										
	点灯するか、汚れ、損傷がないか	最寄の取扱店に依頼する										
	点灯するか、汚れ、損傷がないか	最寄の取扱店に依頼する										
	音がでるか	最寄の取扱店に依頼する										
	汚れ、損傷はないか	最寄の取扱店に依頼する										
	作動するか、ランプが点灯するか	最寄の取扱店に依頼する										

点検項目			点検時間			点検方法	
			始業	廻50廻	時間毎		
その他	エキゾーストパイプ	取付けの緩み及び損傷		○	200	目視にて確認	
		マフラの機能		○	200	目視及び官能にて確認	
	車枠及び車体	緩み及び損傷		○	200	目視及び手で触れて確認	
	その他	前日の作業においての異常箇所	○			—	
		シャーシ部の給油状態			100	P.58参照	
散布装置	給水ストレーナ	ごみ詰まり、網の損傷	○			目視にて確認	
	薬剤タンク水コシ網	ごみ詰まり、網の損傷	○			目視にて確認	
	ノズル	ごみ詰まり、噴板・ボディの損傷	○			目視にて確認	
	送風機	異物の付着、損傷	○			目視にて確認	
	噴霧用ポンプ	オイルの汚れ及び量		○	100	目視にて確認	
		シリンダパイプ内部の損傷			200	締切圧2.5MPaで運転する	

	判定基準	整備の方法	実施日									備考
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	
	排気ガスが漏れていないか	最寄の取扱店に依頼する										
	黒煙は少ないか、異常音はないか	最寄の取扱店に依頼する										
	外観上異常と感じる部分がないか	最寄の取扱店に依頼する										
	修理が終わっているか	最寄の取扱店に依頼する										
	適量給油されているか	最寄の取扱店に依頼する										
	ごみ詰まり、網の損傷	清掃・交換										
	ごみ詰まり、網の損傷	清掃・交換										
	ごみ詰まり、噴板・ボディの損傷	清掃・交換										
	異物の付着、損傷	清掃または最寄の取扱店に依頼する										
	油面がゲージ内にあるか、黒くないか	P.55参照										
	圧力が上がるか、異常音がしないか	最寄の取扱店に依頼する										

■定期交換部品

項目	交換時期						交換方法
	初回50時間	100時間	200時間	600時間	1年毎	2年毎	
エンジンオイル	○	○					P.50参照
エンジンオイルフィルタ	○		○				P.51参照
分配器オイル	○			○			P.54参照
サブミッションオイル	○			○			P.54参照
フロントデフオイル				○			P.54参照
リヤデフオイル				○			P.54参照
油圧作動油（パワステオイル）						○	P.53参照
油圧作動油フィルタ						○	P.53参照
噴霧用ポンプオイル	○	○					P.55参照
パワーステアリングホース						○	最寄の取扱店に依頼
燃料ホース						○	最寄の取扱店に依頼
エアクリーナエレメント					○		P.50参照
燃料フィルタ			○				P.52参照
ラジエータホース			○				最寄の取扱店に依頼
ラジエータ液						○	P.50参照

■冷却系統

- (a) 冷却水はエンジンが冷えている時に、ラジエータキャップを取り外し、入口いっぱいまで入っているか確認します。不足の場合はロングライフクーラントを補充します。キャップは確実に締め付けます。工場出荷時、ロングライフクーラントを入れてあります。
- (b) ラジエータの冷却水の排水は、冷却水ドレンを開けて行います。内部を水道水で錆の出なくなるまで洗浄します。ラジエータ内部の清掃には、ラジエータ洗浄剤を混合した水を15分以上回してから交換すると効果的です。冷却水を入れる時は、必ず新しいロングライフクーラントを入れます。

⚠注意

- エンジンが熱い時に、ラジエータキャップを取り外すと熱湯が噴き出します。冷えてから布を当てがい慎重に外してください。



冷却水ドレン

ラジエータキャップ



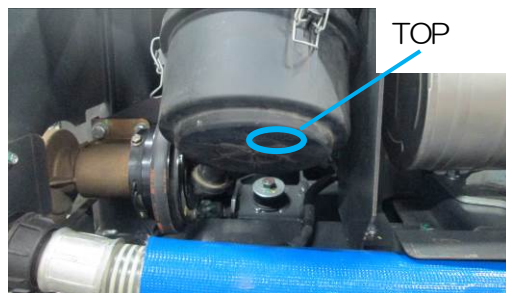
- 出荷時、ロングライフクーラントを使用しており、 -20°C まで凍結しないようになっています。外気温に合わせて濃度を調節してください。

-10°C 以上	30%
$-10\sim-25^{\circ}\text{C}$	40%

■エアクリーナ

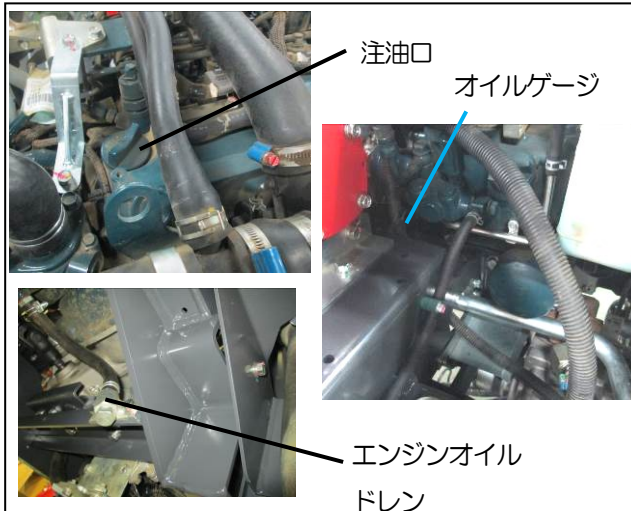
注意 ●エアクリーナエレメントは、必ず運転前に取り出し清掃します。

- 1年に1度、エレメントを交換します。
- カップの取り付けは、下図の通り必ず TOP の位置を右斜め上方にして取付けてください。

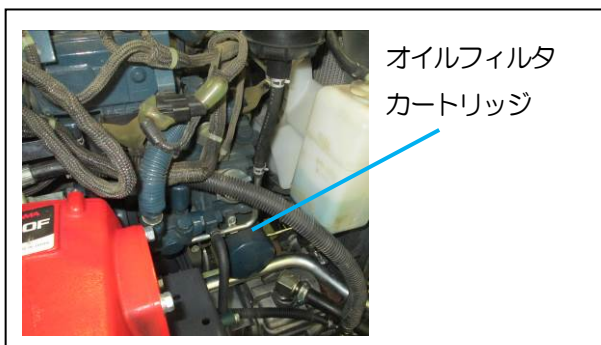


■エンジンオイル

- 点検はエンジン始動前か、停止後約5分を過ぎてから、平坦な場所で行います。オイルゲージを抜き、きれいな布で拭いて差し込み、再び抜いてLとHの間にあるのが適量です。不足の場合はエンジンオイルを補給します。(ディーゼルエンジン用オイル JASO DH-2) エンジンオイルは約4.5L(オイルフィルタ交換時)入ります。
- 初回50時間、以後100時間毎、または、汚れや変色の著しい場合には、新しいオイルと交換します。オイル交換は暖気運転後、エンジンオイルドレンを開け、汚れたオイルを完全に抜き取ります。なお、その際注油口は開けておきます。



■オイルフィルタカートリッジ



200時間毎に交換してください。
(初回50時間)

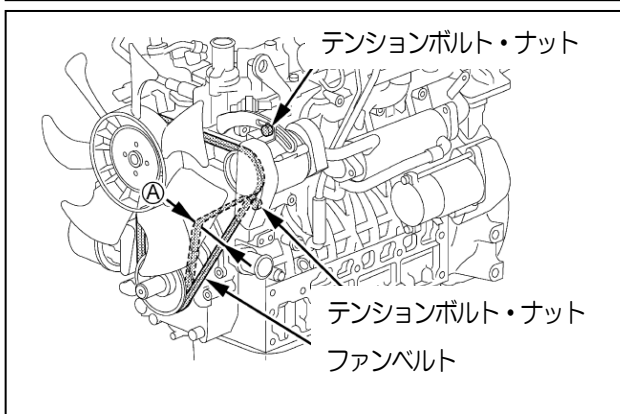
- カートリッジ式のため、フィルタレンチでケースごと取り外し、新品と交換します。
- オイルフィルタ組み付け後は、エンジンを運転し、油漏れがないか点検します。
- オイル交換後、エンジンをアイドリング回転（5分間）で運転し、停止してから10～20分後にオイルレベルを点検し、油量不足の場合は補給します。

注意 ●フィルタレンチは市販のバンド式のものを使用してください。

■ファンベルト

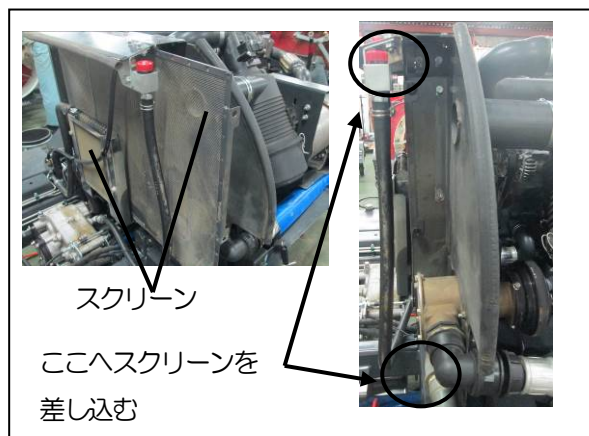
- ベルト中間部①を約100Nの力で押した時のたわみ量（正常時は、7～9mm）、及び亀裂やはがれがないか点検します。

注意 ●ベルトの張りが緩いと、オーバーヒートや充電不足の原因となります。



■スクリーン

- ラジエータとオイルクーラへのゴミ付着防止のスクリーンがそれぞれ付いていますので始業時に引き出して、表面に付着しているゴミを取り除きます。スクリーンの脱着は本機左側から行います。



- ゴミを取り除いた後は、確実にスクリーンを元の位置に差込んでください。

■燃料系統の点検

(a) 燃料タンク

タンク内に軽油が十分入っているか点検します。
不足の場合は、補給します。

(SSA- α 605V：タンク容量約28L)

(SSA- α 1005VT：タンク容量約40L)

100時間毎に給油口ストレーナより、ゴミを抜き取り、タンク下部のドレンを外して、タンク内の水・ゴミを抜き取ります。

補給は、燃料タンクが空になる前に行い、もし燃料タンクが空になった場合は、ただちに燃料を補給し、エア抜きを行います。



⚠ 注意

- 燃料補給は、エンジンを停止して行います。

(b) 燃料フィルタ

200時間毎にエレメントの交換を行います。

- ①カートリッジ式のため、フィルタレンチでケースごと取り外し、新品と交換します。
- ②ちりやほこりが付着しないように、正しく組付けてください。
- ③カートリッジを交換した後は、必ずエア抜きを行ってください。

・SSA-α 1 005VT



ウォーターセパレータ

燃料フィルタ

・SSA-α605V



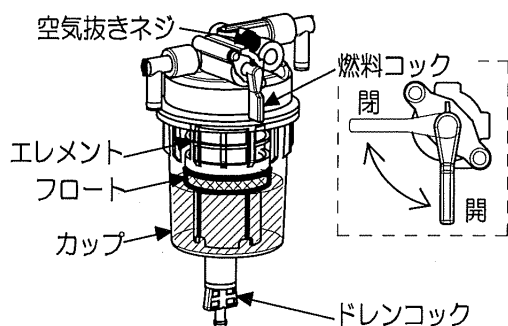
ウォーターセパレータ

燃料フィルタ

(c) ウォータセパレータ

●ウォータセパレータの水抜き

燃料の中に含まれている水を分離し、水が溜まると透明なカップの中にある赤いフロート位置で点検することができます。点検によりフロートが浮き上がっている場合は、水拭きを行ってください。



ウォータセパレータは、
エンジン右側に配置しています。

- ①燃料コックを閉じてください。
- ②ウォータセパレータの底にあるドレンコックと空気抜きネジを緩めて、中に溜まった水を抜き出してください。
- ③ドレンコックを手で締め、空気抜きネジを締めてから燃料コックを開けてください。
- ④燃料漏れがないか点検してください。

●ウォータセパレータの洗浄

ウォータセパレータの内部を定期的に、きれいな燃料で洗浄してください。

- ①溜まった水やゴミを集めるため、専用の容器をウォータセパレータのカップの下に置いてください。
- ②燃料コックを閉じてください。
- ③ドレンコックを開け、水やゴミを排出してください。詳しい方法については、「ウォータセパレータの水抜き」を参照してください。
- ④カップを緩め燃料がこぼれないよう、十分注意して外してください。こぼれた燃料は、きれいに拭き取ってください。
- ⑤カップ内のフロートを取り出してください。カップ内の燃料を専用容器に移し、定められた方法で廃棄してください。
- ⑥エレメント、フロート、カップの内部を新しい燃料できれいに洗ってください。エレメントやOリングが傷ついたり、破損したりしていたら交換してください。
- ⑦エレメント、フロート、カップを元通りに組付けてください。
- ⑧カップは必ず手で締め付けてください。組付けるときは、ちりやほこりが入らないようにしてください。
- ⑨ドレンコックを締め付けてください。
- ⑩燃料コックを元通りに開いてください。
- ⑪燃料漏れがないか点検してください。

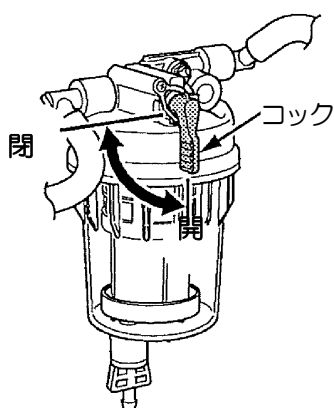
●燃料のエア抜きのしかた

燃料のエア抜きは、次のようなときに行う必要があります。

- ・ウォータセパレータより排水及び分解洗浄したとき
- ・燃料フィルタ及び配管を取り外したとき
- ・燃料切れが起きたとき
- ・本機を長時間使用しなかったとき

エア抜きの手順

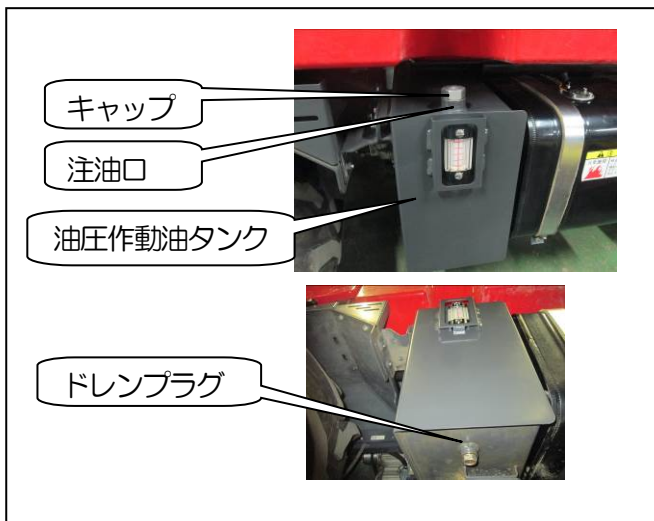
- ①タンクに燃料を満たします。
- ②燃料コックが「開」になっているか確認します。
- ③インターバルでキースwitchの「入」「切」を10回程度繰り返します。
キースwitch「入」：30秒ー「切」：15秒
- ④スロットルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し、スロットルレバーを中立回転(約 1500rpm)位置に戻します。(キースwitchを連続 10 秒間回しても始動しない場合は、30 秒間休み、この操作を再度 1～2回繰り返します。)
- ⑤エンジンをふかす操作をし、燃料系統の中に残っている微量の空気を追い出します。
- ⑥以上の操作後、まだ空気が抜けずにエンストする場合は、上記の①～⑤の手順で再度エア抜きを行います。



■油圧作動油（パワステオイル兼用）

2年毎に新しいオイル（ISO VG46）と交換します。
キャップ及びドレンプラグを外し、オイルを抜きます。
注油口より新しいオイルを規定量を入れます。

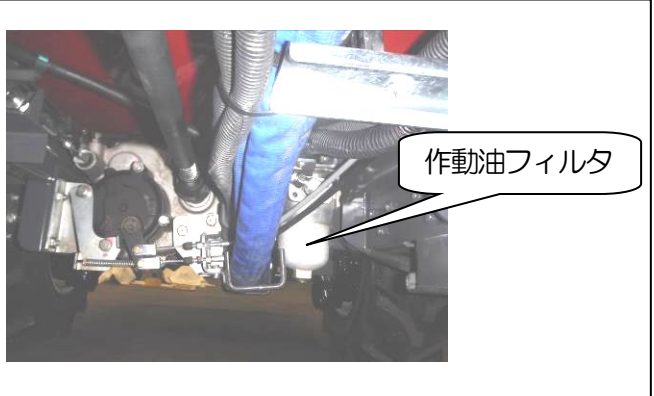
規定量のオイル注入後、油面がレベルゲージ中央にあることを点検します。不足の場合は、オイルを補充してください。



■油圧作動油フィルタ

油圧作動油交換時に、フィルタも合わせて交換してください。フィルタレンチを使用して取外し、取付けは手で締め込んでください。

油圧作動油タンク内にストレーナがあります。問題が無ければ交換の必要はありません。交換が必要な場合は取扱店に依頼してください。

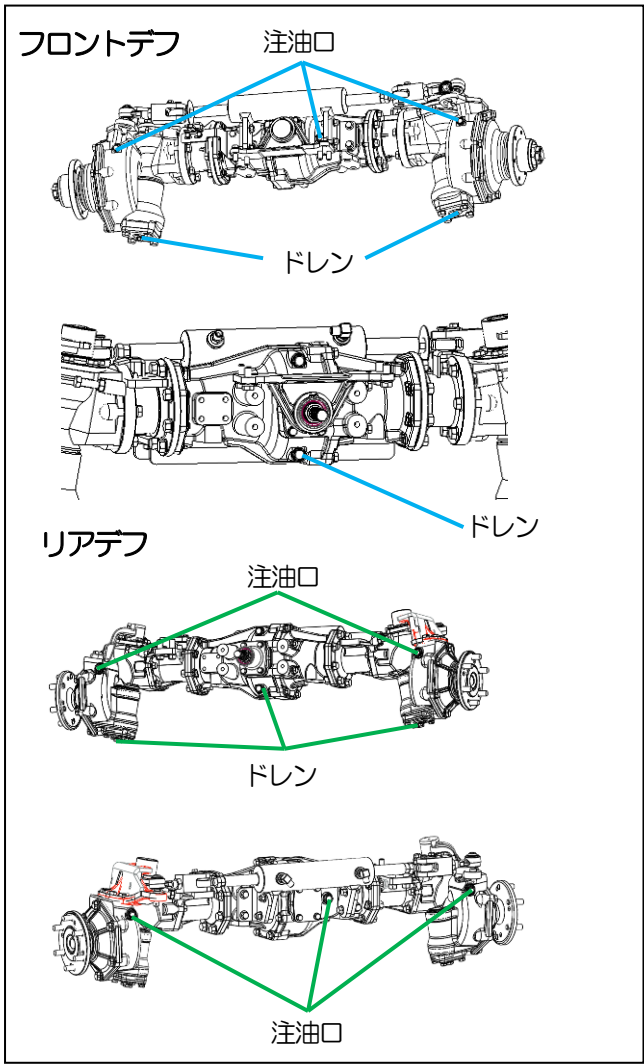


■デフオイル

●初回50時間、以降600時間毎に新しいオイル（SAE90 ギヤオイル）と交換します。注油口及びドレンプラグ（3箇所）を外し、オイルを抜きます。注油口より新しいオイルを規定量入れます。規定量のオイル注入後、試験走行をし、注油口直下に油面があることを確認してください。足りない場合は注油口からオイルがこぼれてくるまでオイルを足してください。

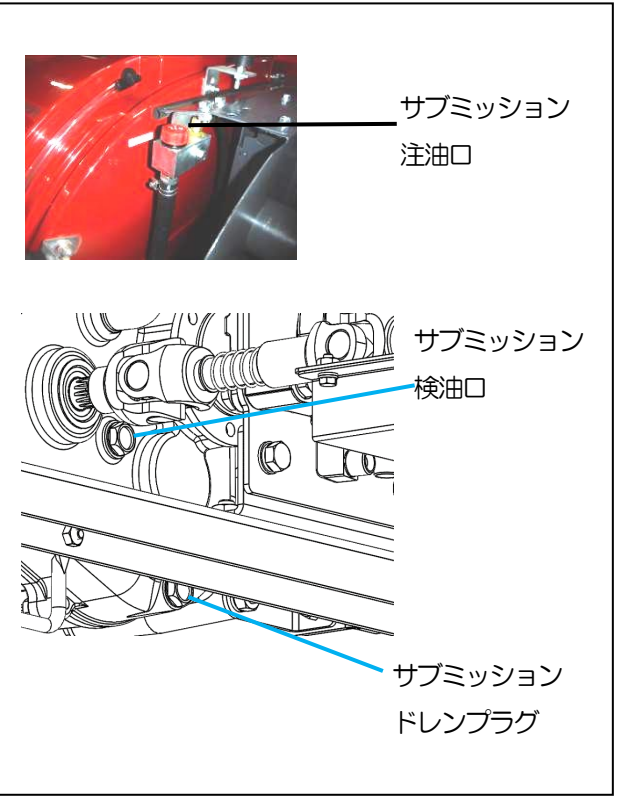
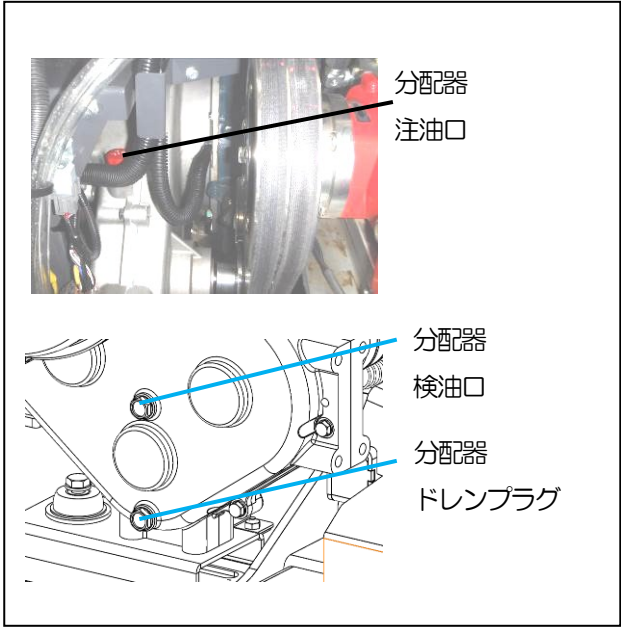
※デフ部 及びナックル部は内部で貫通していますので、同時交換とし、総量が合うようにしてください。
オイル規定量

機種	α605V		α1005VT	
部位	フロントデフ	リアデフ	フロントデフ	リアデフ
総量	2.5L	2.5L	4.1L	4.1L
デフ部	1.5L	1.5L	1.5L	1.5L
ナックル部	各 0.5L	各 0.5L	各 1.3L	各 1.3L



■分配器オイル、サブミッションオイル

●分配器オイル 1.8L、サブミッションオイル 1.8L、初回50時間、以後600時間毎に新しいオイル[給油一覧表(58ページ)参照]と交換します。オイル交換は、下部のドレンプラグより抜き取ります。この時、注油口は開けておきます。注油口より新しいオイルを規定量入れます。規定量のオイル注入後、試験走行をし、注油口直下に油面があることを確認してください。足りない場合は検油口からオイルがこぼれてくるまでオイルを足してください。



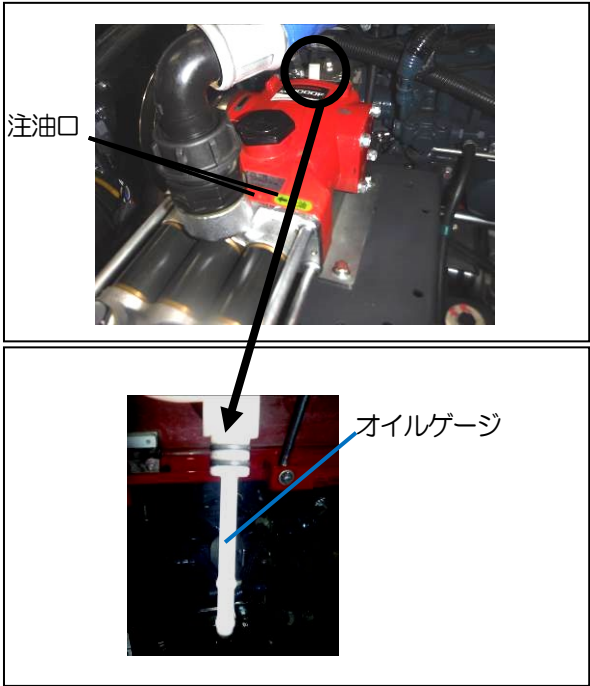
■噴霧用ポンプ

●クランクケースのオイル

初回 50 時間、以後 100 時間毎に交換します。エンジンオイル(SAE 10W-30 API SH 級) を 100 時間または 1 年毎に油差しを用い、シリンダ元の注油口に 3～5 滴注油します。

オイル規定量

機種	α605V	α1005VT
クランクケース	0.6L	1.8L



■Vベルトの点検

初回 50 時間、以後 100 時間毎に行います。
下記範囲になっていない場合は、ご購入の販売店へ整備を依頼してください。

●噴霧用ポンプ V ベルト (SSA-α605V)

ベルト中間部を約 15N の力で押したときのたわみ量が 4mm 以下になっていることを確認します。

●噴霧用ポンプ V ベルト (SSA-α1005VT)

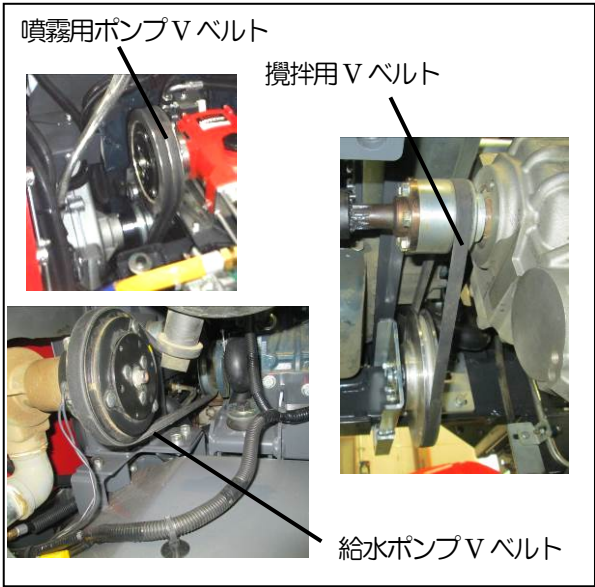
ベルト中間部を約 20N の力で押したときのたわみ量が 4mm 以下になっていることを確認します。

●給水ポンプ V ベルト

ベルト中間部を約 15N の力で押したときのたわみ量が 7mm 以下になっていることを確認します。

●かくはん用 V ベルト

ベルト中間部を約 10N の力で押したときのたわみ量が 4mm 以下になっていることを確認します。



■グリスアップ

●給油一覧表 (58 ページ) 参照

■バッテリー

(1) メンテナンスフリーバッテリーの場合

バッテリー上部にキャップのないものは、メンテナンスフリーバッテリーです。

- ①充電インジケータを垂直に見ます。
- ②充電インジケータの色が透明または、黄色の時は、軽くたたいて気泡を除いてから、もう一度確認してください。
- ③インジケータの色により処置します。

色	充電状態	処置
緑	正常	使用可
黒	不足	補充電が必要
透明	液が不足	始動できない時は交換

※特別、始業点検の必要はありません。

(2) 従来型バッテリーの場合

バッテリー上部にキャップが付いているものが、従来型バッテリーです。

①バッテリー液がUPPER—LOWERの間にあるか点検します。LOWER以下の場合は蒸留水をUPPERまで補給します。

②補給後はキャップを確実に締め付けます。

●バッテリー端子部を点検し、緩んでいる場合は、確実に締め付けます。また、白い粉が付いている場合は、温湯で清掃後、締め付けてからグリスを少量塗布します。

⚠警告

●バッテリーの電解液がバッテリーの側面に表示されている限界 (LOWER LEVEL) 以下になったままで使用または、充電をしないでください。バッテリーの破裂 (爆発) や火災の原因となります。

⚠注意

- バッテリー端子点検時、ショートさせないようにしてください。
- バッテリーコードを外す場合は、必ずマイナス端子側を先に外してください。
- バッテリー液は腐食性が強いので、こぼさないように注意します。もし、手や衣類及び金属部に付着した場合は、水でよく洗います。

注意 ●バッテリーの電解液がバッテリーの側面に表示されている下限 (LOWER LEVEL) 以下になったままで使用を継続しないでください。容器内の各部位の劣化の進行が促進されます。

なお、バッテリー液が不足している時は、蒸留水を補充してください。

※メンテナンスフリーバッテリー (液量に係る使用管理が不要であるバッテリー) については、この限りではありません。

■タイヤ、ホイール

●各車輪に摩耗、亀裂、空気圧不足の異常がないか点検します。

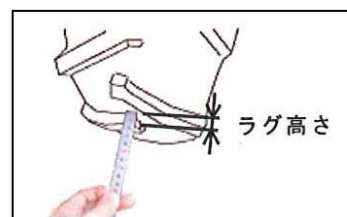
●空気圧が過不足の場合は、適正空気圧に調整します。また、摩耗、亀裂等が大きい場合は、新品タイヤと交換します。タイヤ中央のラグ高さが5mm以下になりましたら交換が必要です。

標準空気圧 前・後輪 280 kPa

●ホイール・ナットの締め付トルク

機種	α605V	α1005VT
前輪	88 N・m	97 N・m
後輪		

注意 ●タイヤの空気圧が高すぎると、タイヤが偏摩耗しやすくなります。また、低すぎるとパンクを起こしやすくなり、燃費も悪くなります。



⚠注意

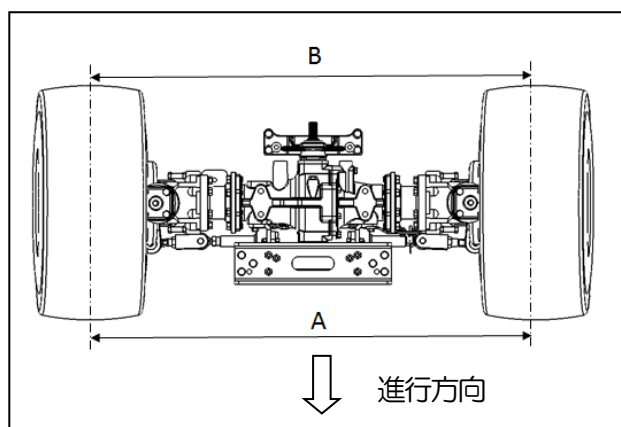
●ホイール・ナットが緩んだ状態で本機を運転しないでください。ゆるんだまま走行すると損傷事故を引き起こすおそれがあります。

■ホイールアライメント

⚠注意

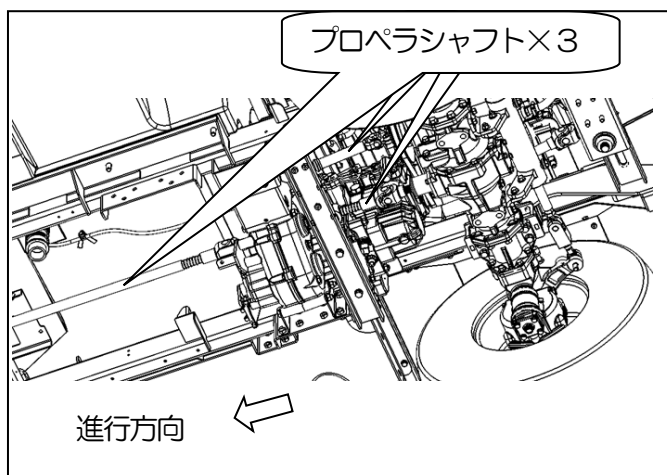
- トーインの調整がずれていると、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。

- 前輪の前幅 A と後幅 B を測り、
 $B - A = 0 \sim 4 \text{ mm}$
になっているか調べます。
トーインがずれている場合は、取扱店に依頼して調整してください。



■プロペラシャフト

連結部のゆるみ、継手部のガタがないか点検してください。



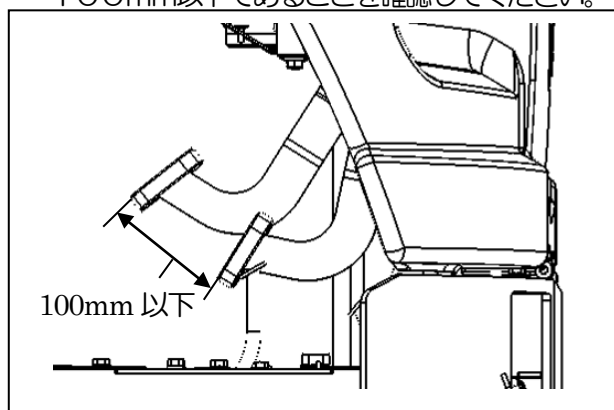
■パワーステアリングホース

パワーステアリングホースに傷、ひび割れなどがないか点検します。傷、ひび割れが見つかった場合は、最寄りの取扱店へ修理、交換を依頼してください。

注意 ●パワーステアリングホースは、2年毎の交換が法令で定められています。交換時期になりましたら、最寄りの取扱店へ交換の依頼をしてください。

■ブレーキペダル

- ペダルを軽く踏み込み、ペダル先端のストロークが100mm以下であることを確認してください。



■ハンドル

- エンジンを低速回転で、ハンドルを左右に軽く回します。タイヤが動くまでの範囲（遊び）をハンドルの円周方向の移動量で測定し、100mmあれば適正です。
- ハンドルを回して途中で引っ掛かりがないかを確認します。異常がある場合は、最寄の販売店に連絡してください。

■駐車ブレーキレバー

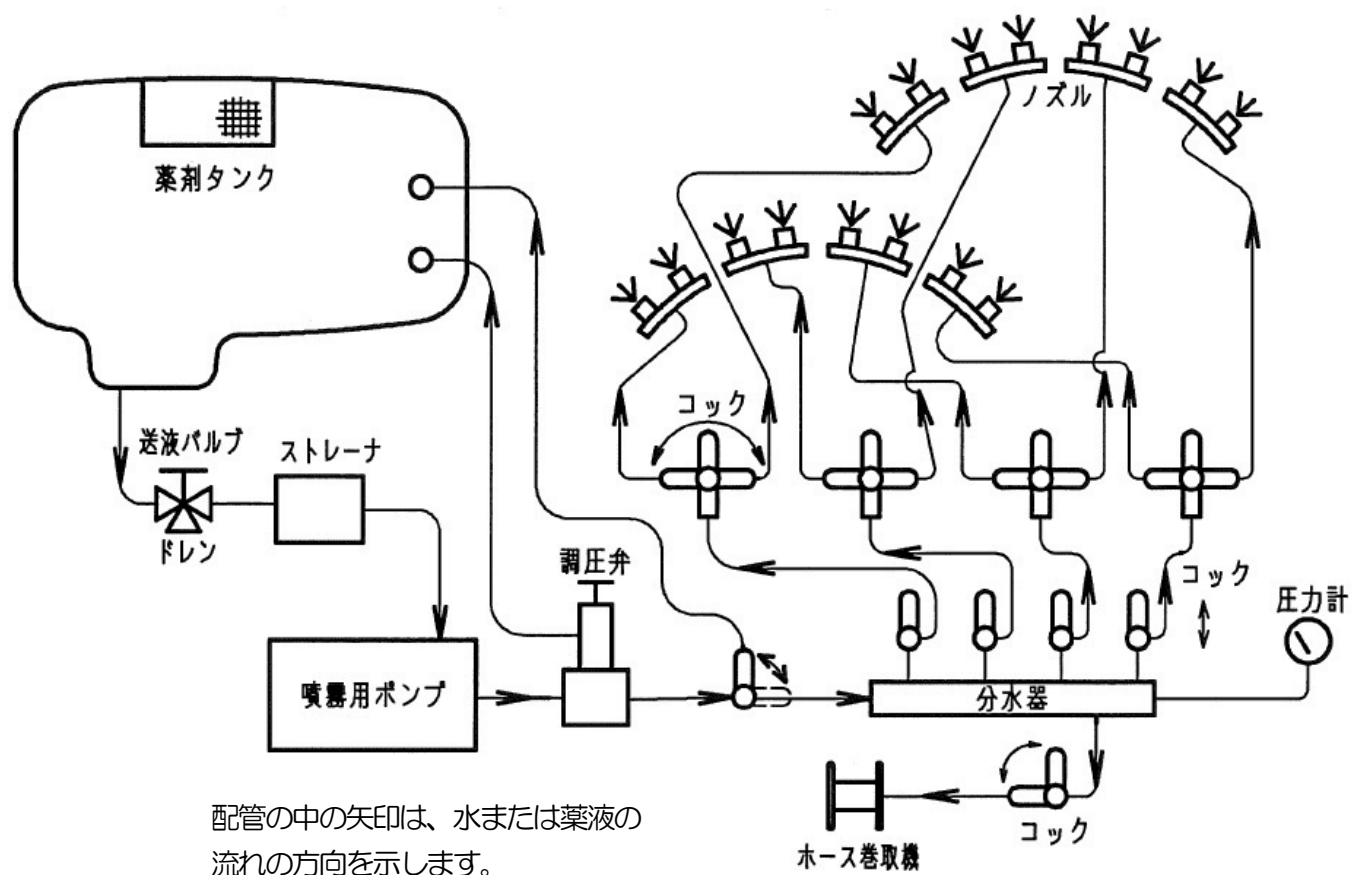
- レバーは操作力100Nのとき、3～5ノッチが標準です。ノッチが確実にロックされているか、確認してください。

注意 ●ブレーキ、クラッチ、ハンドルは運転上重要な部品です。点検のみにとどめ異常を感じた時は、自分では調整せず、販売店に依頼してください。

No.	給油項目	使用オイル	容量		初回交換 (時間)	定期交換・注油 (時間)
			α605V	α1005VT		
1	燃料タンク	超低硫黄ディーゼル 軽油	28L	40L	—	—
2	エンジンオイル	JASO DH-2 API CJ-4 以上	4.0L (4.5L) ※1		50	100
3	サブミッションオイル	SAE75W/80 GL-4 ※2	1.8L			600
4	分配器オイル	ギヤオイルSAE90	1.8L			
5	フロントデフオイル（総量）		2.5L	4.1L		
	フロントデフ部		1.5L	1.5L		
	ナックル部左右		各0.5L	各1.3L		
6	リヤデフオイル		2.5L	4.1L		
	フロントデフ部		1.5L	1.5L		
	ナックル部左右		各0.5L	各1.3L		
7	油圧作動油タンク （オイルタンク）	耐摩耗性油圧作動油 ISO VG46(ISO)	21L	25L	—	2年毎
8	噴霧用ポンプクランクケース	SAE10W-30 API SH級以上	0.6L	1.8L	50	100
9	噴霧用ポンプシリンダ元金具		3～5 滴		—	100また1年毎
10	ブレーキペダル軸	シャーシグリス	適量		20	20
11	ラジエータ	LLC	6.5L		—	2年毎

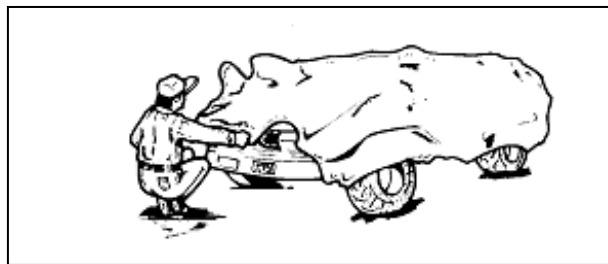
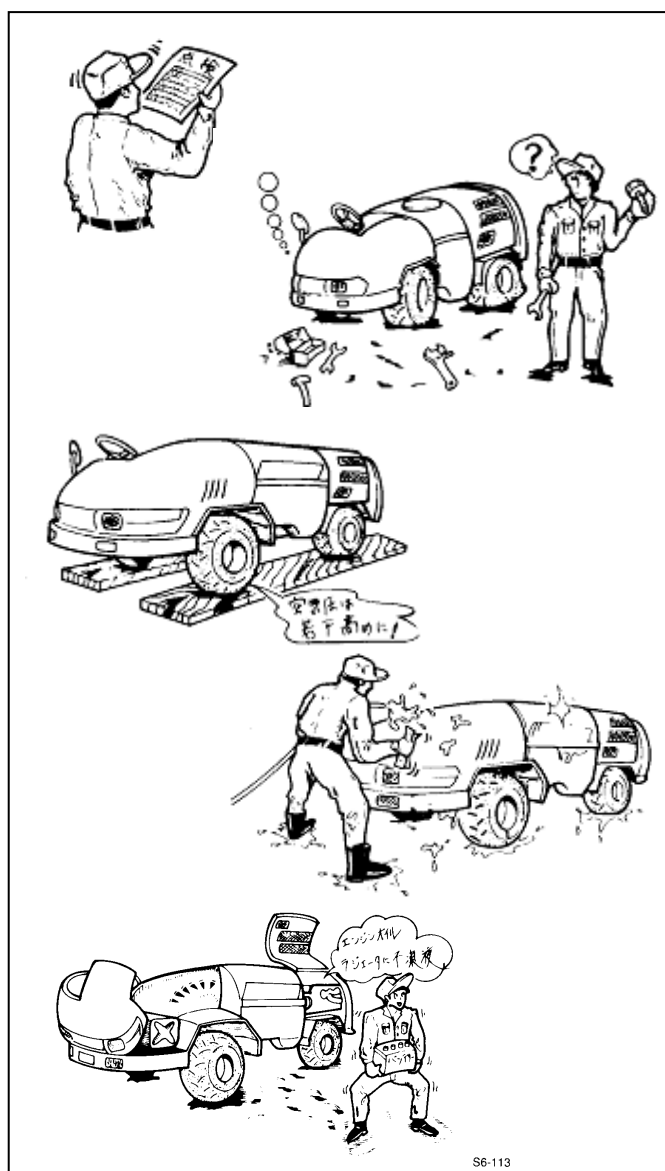
※1. オイルフィルタ交換時

※2. トラクタ用共通潤滑油 (湿式ブレーキ対応オイル)



●長い間使用しない場合は、次の要領で手入れを行います。

- ①保守点検項目を一通り確認実施してください。
- ②不具合箇所を整備します。(取扱店と十分打ち合わせ後、行ってください。)
- ③各部のボルトやナットの緩みを点検し、緩んでいれば締め付けます。
- ④タイヤの空気圧は若干高めにして、直接地面と接しないように、板等を敷いて保管します。
- ⑤本機の水抜きを行います。水抜き方法の詳細は 61 ページを参照してください。
- ⑥本機外部を清掃し、ワックス等を塗布します。
- ⑦エンジンオイルを新しいオイルと交換し、5分間程エンジンを運転し、各部にオイルをゆきわたらせます。
- ⑧スロットルレバーは、必ず上側（低速）の位置にします。
- ⑨バッテリーは本機から外し、湿気のない冷暗所に保管し、1ヵ月に一度は充電をします。
- ⑩塗装がはがれている部分は、サンドペーパー等で錆を落とし、塗料を塗ります。
- ⑪各コック類は「開」の位置にします。
- ⑫燃料タンクは、燃料を満タンにします。
(超低硫黄ディーゼル軽油)
- ⑬格納は乾燥した場所を選び、本機全体が冷却状態であることを確認し、本機にほこり等がかぶらないように、シート等でおおいます。



＜＜長期保管・格納時の水抜き方法＞＞

注意 ●本機の水抜きを行わず保管した場合、凍結によりポンプ・配管部品類が破損する場合があります。長期保管の際は、必ずポンプ・配管類の水抜きを行ってください。

- ①清水を薬液タンクに入れて噴霧用ポンプを低速で運転させて、薬液タンク、配管、に循環させ噴霧ノズルなどから噴霧を行い清掃してください。
- ②ノズルからの噴霧・清掃後の排水はご自分のほ場内の安全な場所で行ってください。
- ③薬液タンクから排水し薬液タンクを空にしてください。
- ④噴霧用ポンプをエンジン回転速度 1、500rpm 以下で空運転（運転は 1 分以内）し、各散布切換cockおよび三方cockを開閉し、ホース内の薬液を完全に排出してください。
- ⑤噴霧用ポンプの運転を停止し、調圧弁部の配管を外し調圧弁内及びホース内の排水を行い、元に戻してください。
- ⑥噴霧用ポンプの水抜きドレンプラグを外して空運転を 5～10 秒行い噴霧用ポンプ内の水を抜きます。噴霧用ポンプの吸水ホースを外し、残った水を抜きます。
- ⑦噴霧用ポンプ用電磁クラッチに水がかからないように注意してください。
- ⑧圧力計を外し、圧力計内部の水を抜きます。
- ⑨各cock類は「開」の位置にしてください。



調圧弁部の配管



噴霧用ポンプ用電磁クラッチ



圧力計



吸水ホース

ドレンプラグ

●消耗品リスト

部 位	名 称		規 格	部品番号	
				α605	α1005
エンジン	オイルフィルタ		クボタ 16414-32434	405377	
	エアクリーナエレメント(インナ)		クボタ R2401-42280	405155	
	エアクリーナエレメント(アウト)		クボタ R2401-42270	405156	
	Vベルト		クボタ 1G571-97010	428147	
燃料配管	フィルタアッシ		クボタ 1J456-43010	428145	
	フィルタエレメント		クボタ 1J521-43170	428146	
電装品	ヒューズボックス	ヒューズ	30A	641496	
		ヒューズ	25A	882541	
		ヒューズ	15A	185012	
		ヒューズ	10A	641262	
		ヒューズ	5A	191738	
	スローブローヒューズ		50A	887844	
	計器パネル (電球)	ブレーキ連結解除	ポジション用口金球 12V3.4WG10BA9S	581116	
		D P F 再生状態			
		D P F 再生要求			
		エンジン異常			
	灯火器 (電球)	車幅灯(前)	ワ10用口金球12V5W G18BA15S		
		ヘッドライト バルブ		407567	
		ウインカ前 バルブ	ワ10用口金球12V21/5WS25BAY15D	408255	
		ウインカ後 バルブ	ワ10用口金球12V21WS25BA15S	407568	
		後退灯	ワ10用口金球12V21WS25BA15S	407568	
		ストップランプ/尾灯	ワ10用口金球12V21/5WS25BAY15D	408255	
		サイドウインカ	ワ10用ウエッジ球12V18WT15	407569	
		コンビネーションメータ 12個	メータ用ウエッジ球12V3.4W T10		
噴霧用 ポンプ	シリンダパイプ内	吸水弁		027944	
		ピストンパッキンマトメ		115420	
		吸水弁カラー		125924	027796
		吸水弁ストッパ		027947	
		バネ座金	M7	015850	
		ナイロンナット	M7	115598	
	シリンダ元金具	シールパッキン		100015	
	シリンダパイプ	シリンダパイプ		131392	131381
		Oリング		023170	125994
	シリンダ先金具	平座金	23X41.5XT4	-	125998
		弁組立		121218	120236
	Vベルト		α605: LB40 スーパーAG-X α1005: LB37.5 スーパーAG-X	889284	699341
攪拌用	Vベルト		LA33 オレンジ	164890	
給水ポンプ	Vベルト		LB49 オレンジ	147956	
薬剤タンク 蓋	Oリング			172197	
吸 水 ス ト レーナ	アミ			865824	
	Oリング			567292	

 注意

●機体の不調の場合は、次表を参考にし、必ずエンジンを止め駐車ブレーキを掛け、キーを抜いてから診断してください。

自分で判断できない場合は、最寄の取扱店に依頼してください。

現 象		原 因	処 置
エンジン関係	キースイッチを回してもスタータが回らない	ブレーキペダルを踏み込んでいない	ブレーキペダルを奥まで踏み込んでから、キースイッチを「始動」に回す。
		配線端子の緩み、外れ。バッテリー端子の緩み、外れ、腐蝕	締め直し、接続し直し。端子部の清掃、確実に締める。グリスを塗布し防錆する。
		ヒューズ切れ	新しいヒューズと交換する。 再度切れる場合は、最寄の取扱店に相談する。
		バッテリーの電圧低下	バッテリー液の補充と充電、バッテリーの交換。
		キースイッチの故障	最寄の取扱店に相談する。
		セルモータの故障	
	スタータは回るが、エンジンが始動しない	燃料がない 燃料に空気が混入している	燃料タンクに燃料を補給し、エア抜きをする。
		燃料が流れない	最寄の取扱店に連絡する。
		燃料コックが閉になっている	燃料コックを開にする
		バッテリーが上がり気味で回転力が弱くなって、エンジンを回す力がない	バッテリーを充電する。 充電されない時は、新品と交換する。
	エンジンが不規則に回る	燃料系統に空気が混じっている	エア抜きをする。
		燃料に水が混入している	ウォーターセパレータのドレンプラグより、水抜きをする。
		燃料噴射ノズルの詰まり	最寄の取扱店に相談する。
		燃料フィルタの目詰まり	
	エンジン出力不足	燃料不足	燃料系統の点検。（空気の混入）
		エアクリーナの目詰まり	エレメントを清掃する。
		圧縮不足	最寄の取扱店に相談する。
		燃料噴射状態の悪化	
		吸排気弁隙間不適切	

現 象		原 因	処 置
エ ン ジ ン 関 係	オーバーヒートした (水温警告灯が点灯)	冷却水量の不足及び水漏れ	最寄の取扱店に相談する。
		ファンベルトの緩み	
		ラジエータ前面の詰まり	ラジエータ前のスクリーン及びフィンの清掃。
	運転中に油圧ランプが 点灯した	エンジンオイル量の不足	オイルを規定量まで補給する。
		エンジンオイルの粘度が低い	適正粘度のオイルと交換する。
		プレッシャスイッチの故障	最寄の取扱店に相談する。
		オイルランプの故障	
	グローランプが点灯し ない	ヒューズの切れ	新しいヒューズと交換する。 再度切れる場合は、最寄の取扱店に相談する。
	運転中にチャージラン プが点灯した	レギュレータの故障	最寄の取扱店に相談する。
		ファンベルトの緩み、破損	
走 行 装 置 関 係	エンジン異常ランプが 点灯した	DPFの目詰まり	『14 走行・停車・駐車のかた (5) 排気ガス後処理装置』を参照し処理をする。
		オーバーヒート	最寄の取扱店に相談する。 ラジエータ前のスクリーン及びフィンの清掃。
		エンジン制御システムの異常	最寄の取扱店に相談する。
	走行できない	油圧システムの故障	最寄の取扱店に相談する。
	変速レバーが停止の 位置でも停止しない	ケーブル系統の調整不良	最寄の取扱店に相談する。
	主変速レバーが戻る	レバーの保持機構のゆるみ	最寄の取扱店に相談する。
	ブレーキの効きが悪い	ブレーキペダルの調整不良	最寄の取扱店に相談する。
		ブレーキワイヤの調整不良	

現 象		原 因	処 置
電装関係	灯火器が点灯しない	電球切れ	新しい電球と交換する。
		ヒューズ切れ	新しいヒューズと交換する。 再度切れる場合は、最寄の取扱店に相談する。
		配線端子の緩み、外れ	点検の上接続し直す、締め直す。
		スイッチの故障	最寄の取扱店に相談する。
散布装置関係	噴霧量が少ない 圧力が上がらない	薬剤が薬剤タンクに入っていない	必要量、薬剤を入れる。
		送液バルブが閉じている	送液バルブを「送液」側にする。
		エンジン回転が低い	スロットルレバーを操作し、回転を上げる。
		調圧弁が調整されていない	調圧弁を操作し、所要の圧力に合わせる。 (常用圧力 1.5MPa)
		吸水ストレーナの目詰まり	清掃する。
		噴霧用ポンプベルトのスリップ	最寄の取扱店に相談する。
		噴霧用ポンプのピストンパッキン、吐出弁、吸水弁の摩耗	
		吸水ホース・噴霧ホース接続金具のパッキン損傷、ホースの損傷	
		ノズルの摩耗	新しい部品と交換する。
		ノズルの目詰まり	清掃する。
		ノズルの噴霧量が多すぎる	ノズル板を適正水量に組み合わせる。
	給水しない 給水に時間がかかる	給水ポンプのインペラ固着	給水ポンプ室内に水を少量入れる。
		給水ホースの損傷	最寄の取扱店に相談する。
		給水ポンプベルトのスリップ	
		電磁クラッチの損傷	
		給水ポンプのインペラ損傷	

サービスと保証について

■保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになられたあとは、大切に保管してください。

製品を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

■アフターサービスについて

○始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、すぐに適切な整備をしてください。お買い上げの販売店にご連絡ください。

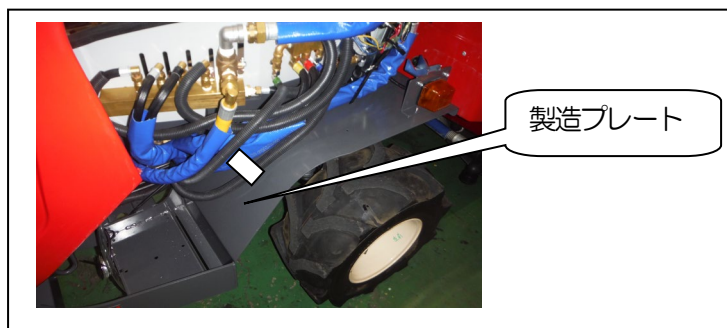
○連絡していただく内容

- 型式名
- 製造番号
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。

○本製品を安全にご使用頂くには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。

年に一度は、お買い上げの販売店に、点検整備をお願いしてください。

このときの整備は有料となります。



■補修部品の供給年限について

本製品の補修部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後9年です。

但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



しっかり点検!安心・長持ち!
末永くお使いいただくためにも
定期的な点検・整備をお奨めします。
詳しくはお求めいただいた販売店までお気軽にご相談下さい。

製品に関するお問合せ等は、まず、ご購入の販売店にご相談ください。または、
下記の全国共通の無料通話でもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120-898-114

受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝日を除く)

製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ
下記の事項をご準備ください。

- ① 製品型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店



株式会社

丸山製作所

本社/東京都千代田区内神田3-4-15 TEL (03) 3252-2281 (営・代表) 〒101-0047

この取扱説明書の部品番号は、888543

P/N.888543-10 2021.10